

官報

昭和十六年二月十九日

第七十六回衆議院議事速記録第十五號

昭和十六年二月十八日(火曜日)

午後一時六分開議

議事日程 第十四號

昭和十六年二月十八日

午後一時開議

質問

- 一 健康不足、米穀不足並精神作興ノ徹底の解決策トシテノ玄米食厲行ニ關スル質問(西村茂生君提出)
- 二 外貨獲得、圓貨回收及死藏商品流通ニ關スル質問(清水留三郎君提出)
- 三 八紘一字ニ關スル質問(生田和平君外一名提出)

- 第一 借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第二 借家法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第三 大正二年法律第九號中改正法律案(裁判所管轄區域ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第四 船舶保護法案(政府提出、貴族院送付)

- 昭和十四年度第一豫備金支出ノ件
昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和十四年度特別會計豫備費支出ノ件
昭和十五年第二豫備金支出ノ件
昭和十五年特別會計第二豫備金支出ノ件
昭和十五年特別會計豫備金外豫算超過及豫算外支出ノ件

承諾ヲ求ムル件

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

- 一 去十五日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ
昭和十六年度歳入歳出總豫算案並昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算案豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

(第一號)昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案
(特第一號)昭和十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案

(臨時第二號)臨時軍事費豫算追加案

昭和十六年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

昭和十五年法律第七號中改正法律案(造船局東京出張所ノ廳舎、工場其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ要スル經費ニ關スル件)

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案(關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル件)

朝鮮事業公債法中改正法律案
朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案
臺灣事業公債法中改正法律案

一 昨十七日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

無盡業法中改正法律案

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官候補及辯護士ノ資格ニ關スル件)

提出者
手代木隆吉君 工藤 鐵男君
濱野徹太郎君 中村 梅吉君
紅露 昭君 原 惣兵衛君

立川 平君 泉 國三郎君

仲井開宗一君 田村 秀吉君

官幣大社札幌神社ニ明治天皇合祀ニ關スル建議案
提出者
木下成太郎君 松尾 孝之君

(以上二月十五日提出)
水產物公定價格ニ適正ナル運賃加算制採用ニ關スル建議案

提出者
馬岡 次郎君 小笠原三九郎君
大野 一造君 長野 綱良君

(以上二月十七日提出)
一 議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ
時局ノ變遷ト政府ノ指導ニ關スル質問主意書
提出者
尾崎 行雄君

(以上二月十五日提出)
一 去十五日近衛內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

燃料局事務官 波江野 繁
同 柳原 博光

第七十六回帝國議會商工省所管事務政府委員被仰付
一 去十五日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ

四三六 本田 英作君
四三八 太田 理一君

一去十五日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

委員會等ノ整理等ニ關スル法律案(政府提出)委員

小谷 節夫君 小泉 純也君

小見山七十五郎君 松川 昌藏君

山田 順策君 池本甚四郎君

大島 寅吉君 大野 一造君

金澤 正雄君 清 寛君

工藤十三雄君 玉野 知義君

道家齊一郎君 樋口善右衛門君

前川 正一君 松尾 孝之君

村瀬 武男君 守屋 榮夫君

木材統制法案(政府提出)委員

河野 一郎君 淺井 茂猪君

大橋清太郎君 松浦周太郎君

馬岡 次郎君 上田 孝吉君

小野 謙一君 北 勝太郎君

工藤十三雄君 紅露 昭君

杉山元治郎君 手代木隆吉君

内藤 正剛君 中村 梅吉君

長野 長廣君 箸本 太吉君

増永 元也君 松尾 四郎君

陸軍軍法會議法中改正法律案(政府提出)貴族院送付)外一件委員

高見 之通君 北村 文衛君

江藤源九郎君 多田 滿長君

南雲 正朔君 濱野徹太郎君

松山常次郎君 宮崎 一君

山元龜次郎君

一去十五日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

昭和十二年法律第九十二號中改正法律案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件)(政府提出)委員

辭任野田文一郎君 補關松田竹千代君

辭任稻田 直道君 補關橫川 重次君

昭和十二年法律第九十號中改正法律案(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)委員

辭任東條 貞君 補關服部 岩吉君

蠶絲業統制法案(政府提出)委員

辭任紅露 昭君 補關西方 利馬君

辭任佐藤洋之助君 補關羽田武嗣郎君

一昨十七日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第九部選出決算委員 山崎 釵二君

一昨十七日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

委員會等ノ整理等ニ關スル法律案(政府提出)委員

委員長 小泉 純也君 小見山七十五郎君

理事 松川 昌藏君 山田 順策君

木材統制法案(政府提出)委員

委員長 淺井 茂猪君 大橋清太郎君

理事 松浦周太郎君 馬岡 次郎君

陸軍軍法會議法中改正法律案(政府提出)貴族院送付)外一件委員

委員長 高見 之通君 北村 文衛君

理事 一昨十七日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

昭和十二年法律第九十號中改正法律案(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)委員

辭任吉田 賢一君 補關大石 大君

辭任北村 文衛君 補關釘本 衛雄君

昭和十二年法律第九十二號中改正法律案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件)(政府提出)委員

辭任小林房之助君 補關小柳 牧衛君

辭任加藤 錄造君 補關川俣 清吾君

蠶絲業統制法案(政府提出)委員

辭任西方 利馬君 補關紅露 昭君

辭任北原阿智之助君 補關長井 源君

東亞海運株式會社法案(政府提出)外一件委員

辭任岡野 龍一君 補關森下 國雄君

委員會等ノ整理等ニ關スル法律案(政府提出)委員

委員長 辭任樋口善右衛門君 補關曾和 義次君

議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマ

ス

○服部崎市君 委員ニ付託シタル議案ノ審

査終了ヲ待ツ爲メ、此ノ際暫時休憩セラレ

シコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ暫時休憩致シマス

午後一時七分休憩

午後二時三十三分開議

○副議長(田子一民君) 休憩前ニ引續キ會

議ヲ開キマス、諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔書記官朗讀〕

一政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ

西村茂生君提出健康不足、米穀不足並精神

神作與ノ徹底の解決策トシテノ玄米食厲

行ニ關スル質問ニ對スル答辯書

清水留三郎君提出外貨獲得、圓貨回收及

死藏商品流通ニ關スル質問ニ對スル答辯

書

生田和平君外一名提出八紘一字ニ關スル

質問ニ對スル答辯書

(以上二月十八日受領)

健康不足、米穀不足並精神作與ノ徹底

的解決策トシテノ玄米食厲行ニ關スル

質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十六年一月二十八日

提出者 西村 茂生

健康不足、米穀不足並精神作與ノ

徹底の解決策トシテノ玄米食厲行

ニ關スル質問主意書

高度國防國家體制樹立ニ最重要性ヲ有スルモノハ人的資源(保健、人口)竝ニ食糧問題ト更ニ精神緊張ノ三件ニ付徹底的體制ヲ整備スルコトデアール

第一 質問要旨

一 右ノ根本的救済策ハ一ニ從來ノ邪食(白米食ト之ニ伴フ邪肉食)ヲ廢止シ正食(玄米食、最初ハ半搗米ト麥トノ炊合)ニ戻スコトヲ舉ツテ實行スベキデアアル政府トシテ此ノ正食實行ガ三ツノ綜合的價值ヲ有スルモノナルコトヲ深く認識シ以テ此ノ好機會(重大時局ト米穀管理ノ兩方ノ存スル)ニ於テ身心ノ大改造(即チ大復古、下毒作用)ヲ期シ得ル此ノ政策ヲ斷行スベキモノナリト思考ス政府ノ所見如何

二 健康不足、米不足竝ニ精神作興ノ三件ニ關スル現況ト之方原因ニ付左ニ政府ノ所見ヲ質サントス

1 該三案件ニ對シ從來政府ガ採リ來レル對策ハ一口ニ申セバ不徹底ナル策ト感ゼザルカ今後此ノ程度ノ政策ヲ以テシテ目的ヲ達シ得ルモノト信ジララルヤ政府ノ所見如何

2 吾人ノ體驗上ヨリ該三案件ヲ一舉ニ解決シ得ル實現的對策ハ正食厲行ニアリト信ズルモノデアアル之ニ對スル政府ノ所見如何

第二 質問内容

3 右ノ對策ハ今日ノ場合急ヲ要スルモノナリト思フ政府ハ該正食斷行ノ政策ヲ急ニ立ツル意思ナキヤ又之ガ決定ニ當リ朝野各方面ノ人士ヲ網羅セル會議ヲ設ケ速ニ研究決定スルノ手段ヲ講ズルノ意思ナキヤ如何

一 保健政策ニ關シテ

1 昔ハ我が國ハ世界中デ最モ優秀ナル長壽國デアアリ健康國デアツタ其レガ今ハ世界文明國中デノ最短期最不健康國トナツタ(醫學而モ輸入ノ「ユダヤ」流醫學ハ獨逸ヲ凌駕スル程發達セルニコンナ有様トナツタ)コトニハ當局モ國民モ深キ關心ヲ持タナケレバナラナイ譯デアール其ノ原因ハ何カ平素ノ多病不健全ハ左程眼ニ映ゼザルモ今回ノ事變デハ一層露骨ニ現ハレタノデアアル今次事變ニ際シテ戰地ニ於テ將兵ノ慢性的疾患ニ罹ラレ恨ヲ吞シテ戰病死シ又ハ内地ニ還送サレタル勇士ノ數ハ幾許デアアルカ實ニ思ヒ半ニ過グルモノアルコトヲ想像スルモノデアアル國防上ノ直接ノ損害ハ申スニ及バズ國家トシテノ損失之ニ過グルモノハナイト思フ其ノ原因ハ何デアアルカ之ニ付テハ幾多ノ原因モアルコトト思フ(例ヘバ

將兵諸士ガ風土ノ相違セル地ニ於テノ心構ノ足ラザルコト衛生官ノ注意ヲ守ラレザルコト等)然シナガラ今日迄當局殊ニ保健専門家ノ保健政策ガ不徹底ニシテ之ニ缺陷ノ存スルト云フコトモ一ツノ大キナ原因デアリナカド思フデアアル尙現今ノ人口増加率ノ悲シムベキ狀態モ全ク同一ノコトカラ來テキルト思フデアアル

2

「ユダヤ」流ノ醫者殊ニ醫學博士ハ雨後ノ竹ノ子ノヤウニドシノ殖エテキルニ病氣ハ其レ以上ニ一周モ二周モ先ニ走ツテ増加シテキルコンナ滑稽ナ風景ガ何處ニアルカ
先年國民ノ不健康ヲ憂ヘ殊ニ健兵ノ目的ヲ達スル爲之ニハ全國民ノ體位向上ヲ期スルコトガ先決問題デアアルトシテ重ク保健衛生ヲ管掌スル必要アルトシテ内務省ヨリ厚生省ガ分離シテ出來タ其レデモ病氣ハ益々激増スル經費ハ増加スルバカリデアアル而シテ今回ノ事變ノ有様ヲ見テ今更ナガラ驚キ更ニ健兵ノ問題ヲ研究シナクテハナラナイコトニナツタ保健行政ノ法律ト豫算トヲ見テモ其ノ七、八割ハ罹ツタ病氣ヲ治療スルトカ診斷法ニ進シタ設備ガアルトカ又ハ他ニ病氣

ヲ傳染セシメナイトカノ範圍ヲ出デナイモノノミデアアル中ニハ體育獎勵ノコト位ハアルガ身體ヲ二六時中養ツテキル食物即チ肥料ノ善惡ノコトニ付テハ考ヘガ及ンデキナイ寒帯ノ獨逸デハ昔カラ無論米ハ出來ナイ而シテ昔モ今モソナニ變ラナイ食物ヲトツテキルシ更ニ醫學ノ方針モ大分變ツテ來テキル之ト反對ニ日本デハ徳川ノ中世迄ハ米ヲ玄米デ食ツテキタモノガ其レヲ白米トシテ食ヒ其ノ爲ニ昔ハ屢々禁令ノアツタ邪肉食ヲ自然ニ盛ニ食フヤウニナツタ(都會デハドウカスルト食事ダケハ日ニ一回位ハ西洋人カ支那人ニ國籍ヲ變ヘル有様)他面醫學ノ方ハ「ユダヤ」流ノ考ヘ方ヲ少シモ改メヤウトハシナイ日本デハ此ノ點ニ對スル著目反省ハ少シモシテ居ナイト申シテ宜イ狀態デアアル當局モ國民モ自ラ「ユダヤ」流ノ營養醫學即チ「フオイト」氏ノ營養「カロリー」説ノ一本槍ニ囚ハレテ居テ西洋人ノ眞似ヲスルコトガ文化生活デアアルトシテ邪食ノアラン限リヲ盡シテキル其ノ食事ノ不自然行爲ハ之ヲ恣ニシ其レニハ手ヲ觸レナイコトニシテ健康ヲ保持ヲシテ行カウトスル其ノ遣リ方ガ文明人デアリ文化

力デアルトシテ此ノ考ヘ方ヲ訂正セザル間ハ日本人ノ健康ガ増進スルコトハ到底出來ナイモノデアルト云フ點ガ私ノ保健ニ對スル重點デアリ主眼點デアル

3 物質ノコトハ何處迄モ文明ニ進ムベキデアアルガ生命(日光、空氣、水、食物)ニ關スル一切ノコトハ原始即チ大自然ニ還ラナケレバナライモノデアアルコトハ大鐵則デアリ侵スベカラザル原則ナノデアアル此ノ物質文化ト生命ノコトヲ一緒ニシテ生命ノコトニ付テモ科學ハ萬能デアアル人間ノ力ドシナニモナルトシテ文化生活ヲナシ我儘ヲ遣リ通シ病氣ニ罹ツタラ藥デ治療スレバ宜イ其レデ差障リハナイモノデアアルト謂フ「ユダヤ」流ヲ遵奉シテ居ルノデアアル今日ノ日本人ノ多病ノ原因ハ不自然行爲ヲ爲ス大自然ノ天罰ト謂ツテモ宜イノデアアル「ユダヤ」流ノ西洋醫學ハ分析的、對症の治療デアアリ醫ノ邪道ニ入リタルモノデアツテ文明人ノ邪慾ヲ迎ヘ發達シタ營利的、打算的主義ノ醫學デアアルト申シテモ過言デナイ「ユダヤ」流ノ「カロリー」説ニシテモ食物ハ熱ヲヨリ多ク出セバ何ンデモ宜イ其ノ爲ニ後日害ガ起ラウガソナコトハドウデモヨ

イ即チ食物ハ「カロリー」一本槍デ其ノ善惡ヲ考ヘレバ良イト云フ考ヘ方ナノデアアル(「フォイト」氏ガ大ト自分ノ「ボーイ」ニ一回ダケ試験シタコトカラ醫學界ヲ風靡スルコトニナツタ營養「カロリー」學説)今日デハ本家ノ獨逸デモ其ノ非ヲ悟リ醫學ハ自然ヲ尊重シテ保健施設ヲスルコトニナツタ現ニ「ロツクヘーラー」研究所ノ「カレル」博士ヤ其ノ他ノ諸士又日本デモ名古屋醫大ノ杉田博士ヤ其ノ他「二三」博士ノ如ク現在ノ西洋醫學程信頼出來ナイモノハナイトシテ勇敢ニ攻撃論文ヲ發表シテキラルル人モアル然レドモソナナ事ヲ言ツタノデハ自己ノ生活繁榮ヲ自滅ニ導クモノデアアルト謂フノデ大勢ハ未ダ治療モ對症の治療アリ營養説ニシテモ分析的攝取完全有效論カ又ハ「カロリー」萬能論ニ因ハレテキルノデアアル此ノ間違ツタ醫學觀念ニ立ツテ大體ノ保健行政方針ガ左右サレ決定サレテキルコトガ現状デアアル法學出身ノ行政主腦者ハ此ノ方面ニ關スル知識モ乏シク又體驗モ無キ爲カ之ハ少シ變ナ方針ダト思フコトガアツテモ専門的素養ガナイノデ専門家ノ説ニ太刀打ガ出來ナイト云フコトガ今ノ有様デア

ル私ノ様ニ少シデモ自然科學ヲ修メテ七年前カラ起ツタ喘息(西洋醫學ノ最大苦手ノ病氣)治療ニ最初西洋醫學ヲ治療ヲ恰モ「モルモット」ニナツタト同様ニイデクリ廻シタ者ハ自分ノ體驗カラシテ相當根強キ自信ニ立ツテ「ユダヤ」流ノ西洋醫學ヲ批判シテキルノデアアル若シ私ノ説ニ對シテ醫ノ本然ノ姿ヲ忘却シテ醫稼業ヲヤル「ユダヤ」流ノ西洋醫學ヲ以テ保健政策ガ萬全ニヤレルモノデアアルトサルル勇士ガアレバ國家ノ爲ニ反對意見ヲ發表シテ貫ヒタイモノデアアル

4 漢法醫學ハ病氣ヲ自然的ニ治療スル點ハ西洋醫學トハ比較ニナラナイケレドモヤハリ之モ病氣ヲ診テ治療スル(藥品ハ自然的ノモノヲ使用スル)ト謂フ範圍デアアル第二ノ西洋醫學ハ局部診斷方法ノ點ヤ局部的治療ヤ豫防ノコトハ中々進ンデキルケレドモ其ノコトガ間違ツテモ何デモ科學知識デ病氣ニ理窟ヲ附ケ對症治療ヲヤル(脚氣病ノ如キ糖尿病ノ如キ喘息病ノ如キハ近々二三十年間ニ學説ハ七、八回モ變リ今ニ不明ナモノモアル治療ニカカツタ人ハ「モルモット」ノ代リニナルバカリ)藥モ草根木皮ヲ分析シテ觀テ有效成分ヲ發見

シテ其ノモノダケヲ抽出シテ服用スルコトデ何等害ハナイモノトシテヤツテキルオオノ代リニ電氣ヲ使ツタリ又太陽ノ代リニ種々ノ光線ヲ發見シテ治療ヲシテキルガ其レデ死ンダ人ハ幾人モアル更ニ最近ハ鼻ナラ鼻、皮膚病ナラ皮膚バカリト云ツタ風ニ分業ガ極端ニナツテ其ノ局部ヲ治療スル裡ニ往々油斷シテ命ノ方ガ一足先ニ無クナルト云フ例ハ幾ラモアル第三ハ自然醫學トイフモノハ人間ノ生命ノコトハ大自然ノ法則即チ日光ヤ水ヤ空氣ハ勿論ノコト殊ニ食物ノコトガ主デアアルカラ此ノ肥料ヲ自然界ノ原則ヲ守リ自分ノ住ム地方デ自然ニ出來ルモノヲ自然ノ形ノ儘デ食フベキデアアルトシテキル此ノ觀念ノ上ニ立ツテ保健政策ヲ考ヘ治療モ考フベキデアアルト謂フノガ自然醫學ナノデアアル(然シ現在ノ病氣ノ有様デハ一般ノ西洋醫學ニモ尊重スベキモノ用ユベキモノガ多分ニアル)「ユダヤ」流ノ西洋醫學ニ浸ミタ行政當局ノ中ニハソナナ食事ヲ改メルト言フガ如キコトハ醫學デハナイデハナイカト云フ人モ間々アルソナナ人ハ醫學ヲ識ツテ醫ノ本態ヲ知ラザル方々デア

ルハ、カヤウナ人達ガ保健行政ノ適

否ヲ決定サルルノデハ到底國民ノ健康保全ハ望マレナイノデハナイカと思フ

5 即チ行政當局ハ過去ノ有様ト現在ノ狀況ヲ見ラレテ保健行政ノ根本的對策ニ關スル限リハ吾人ノ稱スル「ユダヤ」流ノ西洋醫學ニハ再檢討スベキモノアリト感ゼザルカ又再出發ヲ爲スベキモノトノ意思ヲ有セザルカ

6 世界第一ノ病弱國トナリタルコトト之ニ對スル醫學ノ現狀ヲ照シ合セ考ヘラルル時ニ其ノ原因ノ主ナルモノハ更ニ深ク研究スベキ必要アルモノトシ、其ノ原因ノ主ナルモノハ何デアアルカラ考ヘラレヤ

二 玄米ト白米トノ比較

1 玄米ハ實ニ理想的食物ニシテ殊ニ日本人ニハ自然ニ出來タ天與ノ食物デアアル今ノ様ニ精白ニシテ食フコトニナツタノハ今カラ二百六七十年前カラノコトデ此ノ頃カラ士風モ益々墮落シ始メタノデアアル玄米ヲ白米トシテ食シ其ノ不足セル蛋白ヤ脂肪分其ノ他「カロリ」サヘアレバ邪肉食デ補給スルモ害モ無ク完全ニ目的ハ達セラルルモノナリトノ考ヘ方ガ即チ「ユダヤ」流ノ營養醫學ナノデアアル白米ハ發芽

不能ナ生命無キ死ンダモノデアアル無論胚芽米ト七分搗ニハ「ヴァイタミン」ハ少シハ殘存スルモ何レモ死ンダモノデアアル自然生活動物ハ生命ノアル生キタモノシカ食ハナイノニ（猿デモ鳩デモ玄米ト白米ヲ混ゼテアレバ玄米シカ普通ハ食ハヌ猶ハ死ンダ鼠ハ食ハヌ）獨リ人間ノミガ死ンダ變質シタ白米ヤ邪肉食ヲ攝ツテ完全ニ生命ヲ保チ得ル理窟ハナイ即チ玄米ニハ有機物質ノ蛋白、脂肪、澱粉ト無機物（灰分）ノ「カリウム」、「ナトリウム」、「マグネシウム」、「鐵」、燐其ノ他更ニ各種「ヴァイタミン」類ト「アルカリ」分ガアリ更ニ最重要ナル生命素ヲ有シテキル而シテ有機物ノ攝取ヲ支配スルハ無機分中ノ「カリウム」、「鹽ト」、「ナトリウム」、「鹽ト」アル（「ケンメリヒ」氏ノ實驗）其ノ夫婦兩鹽ノ割合ガ玄米ハ「カリ」鹽ガ五デ「ナトリ」鹽ガ一ノ割合デ理想的ニナツテキル此ノ玄米ガ白米トナレバ生命素ノ失ハルコトハ勿論ノコト「ヴァイタミン」類ハ全部失ハレ無機分ハ五分ノ一程度シカ殘ラズ有機分ハ澱粉ノミハ大部分殘シ得ルモ蛋白ト脂肪トハ極ク少量ヲ殘スノミデ大部分ノモノハ失ハルモノデアアル即チ糠トシテ去

ルノデアアルカラ白米ノ二字ヲ横ニ列ブレバ粕トイフ字ニナリ健康ノ康ノ字ノ偏ニ米ノ字ヲ書クト糠ト云フ字ニナル文字ハヨク實質ヲ表シタモノデアアルト古人ヲ今更感心スルモノデアアル

2 白米トシテ食フノデ營養分ガ不足シテ來ルソコデ副食物トシテ邪肉食ヲ食フ此ノコトガドンチニ身體ニ害ヲ及ボスカ邪肉食ハ熱量即チ「カロリ」ハ高イガ砂糖ト同一デ害ガ多イ徳川時代デモソナリ理窟ハ別トシテ肉ハ害ノ有ルモノトシテ再三禁令ガ出タ其レガ明治時代「ユダヤ」流ノ營養醫學ガ輸入サレテ此ノ説ガ信用サレテヨリ邪肉食ヲ食フコトガ文化人デアアルトシテ益々多ク用ユルコトニナツタノデアアル人間ノ體液ハ「アルカリ」性ニナツテキルノデ病氣ニナラナイノデアアル體ハ働クト勢ヒ酸性ニナルソコデ血液ガ「アルカリ」性ニナツテキレバ早く酸ヲ中和シテ元氣ハ回復スル（普通休息スルト酸ハ中和スル）所ガ玄米ヲ食ヘバ自然ニ肉食ヲ必要ハ無クナリ野菜カ海藻（肉ハ食ツテモ魚位ノモノ）ノミヲ食フモノデアアル野菜ヤ海藻ハ「アルカリ」分ノ有力ナ供給者デアアルト反對ニ白米ヲ食ヘバ

勢ヒ邪肉食ヲ食フコトニナリ（而モ多クハ變質シテキル）肉ハ酸ノ有力ナ供給者デアアル現ニ草食獸ノ牛馬、穀菜食ノ人間（昔ノ日本人ガ根氣良ク強ク今日ハ根氣ガ無い）ハ勞働ニ持續的耐久力ヲ有シ之ト反對ニ「ライオン」ヤ猫ハ常ニ眠リヲ食ル癖ガアルノデアアル此ノ「アルカリ」分ノ缺乏セル場合ハ體內ニキル微菌ガ繁殖シテ病氣ニナルノデアアル手數ヲ懸ケテ白米トシテ大事ナ糠ヲ去リ、ヤレ「ヴァイタミン」ガ不足スルカラトテ高イ「ヴァイタミン」劑ヲ買ツテ服ンダリ注射シタリ「カルシウム」ガ不足スルトテ之ノ注射ヲシタリスル（ソレモ完全ニ自然攝取ヨリ以上ニ有效ナラバマダシモ）人間ト云フ動物位生命ノコトニ付キ滑稽ナ事ヤヤル動物ハ他ニナイと思フモノデアアル

3 食物ニハ前申シタ生命素ノ有無ガ生命ニ大關係ヲ有スルモノデアアル死ンダモノニハ生命素ハ無いコトハ勿論デアアル動物ノ死トハ水ト脂肪ノ分離シタ形ヲ指スノデアアル生キテ居ル間ハ水ト脂肪ハシツクリ抱合ツタ形ニナツテキルモノデアアルカラ脂肪ノ吸收モヨリ容易デアアル政府ノ輸入スル南京米ハ熱

帶産ノモノデサラノシテキテ洋食ノ「ライスカレー」ニハ適當デア
ルガ日本食ニハ不向デアル殊ニ白
米トシテ永ク放置シテアルノデ甚
シク變質シテキル藥ヲ服ンデ調節
スルコトヲ識ツテキル人間デモ昨
年來其ノ爲腸ヲ損メタ人ガ中々多
カツタ藥ヲ服ムコトヲ知ラザル上
等ノ犬猫ハ其レガ爲ニ血便ヲ出シ
テ死ンダモノガ澤山アツタ、コン

ナモノヲ幾ラ白米食―邪食―美食
中毒患者ノ嗜好慾ヲ滿ス手段トハ
申セ、コンナ馬鹿々々シキ眞似ヲ
毎年ヤルト云フ國民モ國民デアリ
當局モホントニドウカシテキルト
思フモノデアル他ニ體ヲ良クシテ
七八百萬石ヤ千萬石ノ米ノ不足ハ
純日本白米ニ比シ少シロザワリノ
惡イ(今ノ配合飯ヨリハ遙カニロ
ザワリヨシ)コトヲ我慢スレバ救
濟ノ方法ガ幾ラモアル位ノコトニ
ドウシテ氣ガ付カナイノカ之ハ全
ク當局自身モ國民モ共ニ邪食慾ヲ
満足サスコトニシテ其レニハ手ヲ
觸レナイ範圍デヤルト謂フカラデ
アル玄米食ヲ用ヒテ外米ヲ輸入シ
ナケレバ大枚ノ金ガ浮ブノデ差當
リ國防上ニモ大關係ノアルコトデ
アル

三 米不足ニ付テ(節米ニナルカ)

1 先年迄ハ米ハ過多デアツタ米價
ノ下落ニ因リ米ヲ海ニ流サントシ
タコトノアル我ガ國デアアル、トコ
ロガ昨年來豫想モシナイ米不足ガ
襲來シタ其ノ原因ハ一部地方ノ風
水害トカ蟲害ノ爲トカ又ハ事變ノ
爲トカ云フ簡單ナ理由ノミデ片付
ケルコトガ出來ルノカ頗ル疑問ニ
思フノデアアル

2 私ハソナ浅ハカナ原因デ之ガ
來タモノデナイト思フ米不足ハ國
民ガ心ヲ入レ直シテ邪食ヲ廢シ正
食即チ自然食ニ戻サザル間ハドン
ナ増産計畫ヲ樹テテモ植物ト動物
ハ離ルベカラザル自然界ノ原則ガ
アルノデ米不足ハ永久ニ續クモノ
ナリト信ジテキル人間デモ植物デ
モ地球上ニ於テ溫度ノ相違デ其ノ
表面ノ色モ實質モソレノ異ナツ
テキル即チ生物ハ適者生存ノ原則
ニヨリ存在シテキルソコデ動物ニ
ハ其ノ動物ノ住ンデキル地方ニ出
來テキル物ガ食糧トシテ天ヨリ與
ヘラレテキルト見ルベキデアアル之
ガ自然界デアアル寒帶ニハ植物ハ多
ク出來ナイカラ生キタ動物肉ヲ食
フテアル日本ノ様ナ寒帶、溫帶、
亞熱帶ノ存スル國內デハ同ジ穀物
デモ米デモ雜穀ニシテモソレノ
養素ガ異ナリ其ノ地方ノ住民ニ適

當スルヤウニ成育シテキルノデア
ル

3 即チ植物ハ土デ養ハレテキテ身
土ハ不離デアアルコトハ勿論デア
ケレドモ動物モ亦人間モ身、土ハ
不離デアアル其ノ適シタ土ヲ離レテ
完全ナ生命ハ無イモノデアアル之ガ
自然界ノ大原則デアアル

右ノ大原則ヲ破ツテ寒帶ニ住ム人
ガ近來文化ガ進ンダ爲ニ其ノ地方
デ自然ニ産スル高粱トカ又ハ從來
ノ食物ヲ廢シテ溫帶ノ米ヲ而モ白
米デ食ヒ溫帶ノ人々モ更ニ玄米ヲ
食フコトヲシナイデ白米ヲ食ヒ最
近副食物ガ不足ナノ益、多量ニ白
米ヲ食フ此ノ不自然ナ行爲ガ米不
足ノ大ナル原因ト思フ當局ノ所見
如何

4 更ニ肥料對策、空地利用等ニ依
ル増産計畫ハ勿論必要デアルケレ
ドモ人口モ増スノデソナ追駈ゴ
ツコノナ對策ノミデハ不徹底デア
ルソナコトデハ如何ナル食糧難
ニモ應ジ得ル萬全ナ策デハナイ此
ノ際白米ト其レニ伴ツテ起ル邪肉
食ノ一切ヲ廢シテ玄米食即チ生命ノ
アル食物ヲ攝リ而モ其ノ住ム地方
デ出來ル穀類、蔬菜(魚類)ヲ生キ
タ儘ノモノヲ食スルト謂フノデナ
イト食糧難ハ救ハレヌ此ノ遣リ方

ナラ天罰ガ來ナイト思フ

5 玄米ナラバ自然ニ咀嚼ハ十分ニヤ
ルコトニナル(又一口六七回嚙
ムコトニ努ムベキデアアル)昔カラ
物ヲ良ク味フト謂フ言葉ガアル玄
米ハ嚙ム程味ガ出ルガ白米ハ出ナ
イ又食事デモ物事デモ「コナス」ト
謂フ言葉ガアル嚙ンデ粉ニナルコ
トデアアル穀類ハ嚙ム程粉ニナルガ
肉類ハ嚙ム程粕ガ出ル言葉語源ニ
ハ中々味フベキモノガアル

私ノ體驗ヨリスルト咀嚼モ十分ニ
スルシ榮養分モ十分アルノデ玄米食
ハ白米食ノ時ヨリ米量ハ半分以下
デ濟ムカラ推定ノ内輪ニ見テモ
半搗米鷹行デモ優ニ一箇年一千万
石以上ノ節米ガ出來、玄米ナラ更
ニ二千萬石ハ十分節米ガ出來ルモ
ノトノ自信ガアル其レニハ國家ト
シテ玄米食ノ三德ニナルコトヲ國
民ニ親切ニ教フベキデアアル、ソノ
上前申シタヤウニ健康ニナル右ニ
對スル當局ノ所見如何

四

1 「食正シケレバ人マタ正シ」ト古
語ニアル如ク美食ヲ追フ國民ハ心
身共ニ紊レテ其ノ國亡ブ歴史ハ雄
辯デアアル(羅馬帝國ノ亡ビシ事又
現在歐洲ニ於ケル一、二ノ有様)實
ニ玄米食ハ豐受大神ノ神靈ヲ保有

セル大和魂ノ源泉デアルト申シテ宜イ御即位ノ大嘗祭モ毎年ノ新嘗祭モ御米ヲ祭ル祭典デアル一口ヲ六七十回モ嚙ムノデ禪ノ數息觀ノ教ト同一デアル「食ヲ戴ク」ト謂フ言葉ハ豐受大神ヲ體內ニ迎ヘル意味デアル此ノ事ヲ考ヘテ食ヘバ心モ自然ニ引締ツテ來ル實ニ玄米食ハ保健ノ根本的對策デアリ米不足ノ根本解決策デアリ更ニ精神作興ノ唯一ノ實行ヨリ來ル救濟策デアルト信ズルノデアル

今ノ健康不足モ米不足モ精神問題モ皆天照大神、豐受大神ノ神威ニ觸レタル神ノ戒デアルト考フベキデアル

2 臣道實踐モ口先ダケノ宣傳デハ駄目デアル上下同一ニ實行出來ルコトカラ始ムベキデアルト思フ徒ニ理念ノミノ爭デ人ヲ罵ルコトハ止メテ平凡ナ而モ善イト思ツタコトハ克己心ニ鞭ツテ眞面目ニナツテ實行スベキデアル又此ノ位ノコトガ出來ナイ様デハ此ノ時局ハ眞ニ到底乗切レナイノデハナイカト思フモノデアル

五

玄米食ノ非難ニ付テ

1 玄米食ハ吸收ガ惡イトカ不消化物ガ多イトカ非難スル人アリ吸收率ト吸收實量トハ異ナルモノデア

ル玄米ト白米ハ要素含有量ニ大差アリ更ニ玄米ニハ存シテ白米ニハ皆無ノ要素ニ付テハ比較スル術モ無イコトデアル消化、不消化ノコトハ玄米ニハ大便トシテ出ル固形物ハ多キモ其ノ不消化物ハ體內ニ停滯スルモノニアラズ寧ロ腸ヲ刺戟シテ便通ヲ助ケルモノデアル

2 玄米ハ炊方方面倒ダトカ非難スルガ炊方ハ普通白米ヨリ蒸ス時間ガ一時間位長ク掛カルノミデ釜ハ普通釜ノ方ガ便利デアル私ハ冬ナラニ、三日分ヲ一度ニ炊キ握飯ニシテ置クノデトモ食事ガ手輕デアル

3

玄米ハ野蕃的非文化的デアルコ

ザワリガ惡イト非難スル人ガアルケレドモ現ニ政府ガ指定シテキル混合米飯ヤ「デパート」食堂ニ出テキル代用食ト比較スルト遙ニ口ザワリガ宜ク旨イモノデアル

4

玄米ハ良イガ其レデハ糠ガ無ク

ナリ家畜ノ飼料ガ無クテ困ルト言フ人ガアルソナナ方ハ玄米食ノ利益ニナル原理ヲ識ラザル低級ナモノデアツテ返答モ出來ナイ範圍ノモノデアル

右申スヤウナ玄米食ヲ彼是非難サル方ハ畢竟祿々試ミラレモシナイ人カ又ハ何ニカノ機勢デ玄米食

ヲ試ミラレテモ外デノ會食ガ多イ人カ又ハ玄米ハ玄米デ食ツテ十分ニ嚙ミモシナイデ邪肉食モ白米ノ時ト同様ニ遣ラレタ方ノ言分デアル之ヲ要スルニ其ノ非難ハ白米——邪食中毒症患者ガ中毒癍ヨリ脱スルコトヲ好マレザル方々ノ聲ガ大部分デアルト思ハレル

5 美食者ニ病多ク粗食者ニ病少シ全國優良壯丁村ハ悉ク粗食厲行ノ村デアルコトニ注意スベキデア

ル

宮中ノ事ヲ申スモ畏レ多キ極ミナレドモ 陛下ノ御日常ノ御事ヲ謹記セル數々ノ記錄ヲ拜讀スルニ常ニ半搗米ト麥トノ炊合ガ 玉體ニ宜シキモノトシテ之ヲ御召上リニナツテイラセラルルコトガ謹記シテアル私共トシテ此ノコトヲ拜シ御聖德ノ程恐懼感激ニ堪ヘヌ次第デアル今更ナガラ白米食ノ是非ヲ論ズル迄モナイコトデアル口ニ

六

行政廳ノ取扱ニ付テ

1

獨逸ノ現狀ハ政治上ニモ參考ニ

ナルコトガアルガ其ノ表面ノ遣リ方ノミヲ見テ之ヲ判斷スルコトデハ駄目デアル「ヒットラー」氏首メ

2

今ノ日本人(殊ニ中流以上ノ人

達)程食姿ノ紊レタ國民ガ何處ニアルカ(都會カラ地方ニ次第ニ蔓延シテキル)之ガ多病ノ原因デアリ米不足ノ原因デアリ更ニ精神總動員ヤ臣道實踐ヲ高唱スル必要ニ迫ラルル現狀ヲ招來シタ原因デアルト信ズルモノデアル

3

今回私ガ白米食廢止玄米食厲行

ノコトデ各役所ヲ訪問シテ玄米食ガ右ノ三ツノ目的ヲ達スル上ニ付體験上カラモ學理的ニモ最良ノ政策デアルト云フコトヲ説明シタ大體ニ私ノ説ガ惡イ説ダト申サレタ方ハ無イケレドモ當局其レ自身モ白米ト邪肉中毒症患者デアリ且又國民ノ嗜好慾ニ少シデモ反スルコトハ面倒ガ起ルト云フノカ熱心ニ聽

カレタ當局ハ直接關係ナキ省ノ二人ダケデアツタ私ノ主張スル保健、節米、精神問題ノ三ツガ一ツノ玄米食厲行デ目的ヲ達スルト謂フノデアルケレドモ今ノ醫者ノ分業ノ如キ現在ノ制度ハ分業ニナツテキルノデ例ヘバーノ役所ニ行ケバ私ノ所ハ米ノ生産ヤ配給ノコトヲ掌ツテキルノデソシナ保健ノコトヤ精神上ノコトナラ厚生省カ文部省ニ話セト云ツタ調子デアル又次ノ役所ニ行ケバ私ノ所ハ保健ニ關スルコトヲ專門ニ遣ツテキルノデ精神上ノコト等文部省ニデモ話シタラ宜カラウト又文部省ニ話セバ精神指導ノコトハ遣ツテキルガ玄米食ガソシナ心ノ爲ニナルト云フコトハ餘リ識ラナイカラ研究シヨウ今ハ何シロ米ガ不足ナノデアルカラ其レヲ心配スル役所ハ農林省デアアルカラトカ謂ツテ餘リ熱意ヲ以テハ聽カレナカツタ此ノコトカラシテモ今ノ制度ニ多分ノ弊ノアルコトガ明カデア

第三 質問ノ諸點

一 此ノ際白米食——副食ノ邪食ヲ廢止シ玄米食ヲ擧ツテ厲行スルコトハ右三案件ヲ根本的ニ解決シ得ル良策デアルト信ズルモノデア

政府ハ玄米食厲行ガ此ノ三ツノ目的ヲ(假ニ少シデモ)達シ得ル良策ナリトノ考ヘヲ有セザルヤ否ヤ
二 又該認識ハアツテモ何者ニカ妨ゲラレテ斷行スルダケノ勇氣ト自信ヲ有セザルモノニ非ザルカ否ヤ
三 殊ニ保健政策ノ根本的對策ニ付テハ過去ノ經驗ト現狀ニ鑑ミ今日ノ「ユダヤ」流ノ弊ニ陷レノ西洋醫學ノ觀念ノミニ立脚セル政策ニハ再檢討ヲ要スルモノナリトノ著想ヲ有セザルヤ
四 白米食ニ對スル政府當局ノ所見如何
五 政府ハ國民ニ向ツテ物資ハ文化的ニ進メ生命(食物、日光、空氣、水)ハ原始ヲ守ルコトノ原則ト殊ニ食律復古(自然物ニ憑ル)ガ健康保持ノ第一ノ要件ナルコトヲ教育ヲ通シテ宣傳普及スル意思ナキヤ

六 右方針決定ノ爲速ニ朝野ノ各方面ノ人士(西洋醫學者、自然醫學者、漢法醫學者、病理ト體驗ヲ有スル人並精神界、教育界、政治界ノ人士)ヲ網羅セル會議ヲ設ケ決定スル意思ナキヤ否ヤ
右及質問候也

昭和十六年二月十八日

内閣總理大臣 公爵近衛 文磨
衆議院議長小山松壽殿

衆議院議員西村茂生君提出健康不足、米穀不足並精神作興ノ徹底的解決策トシテ

ノ玄米食厲行ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

答 辯 書

衆議院議員西村茂生君提出健康不足、米穀不足並精神作興ノ徹底的解決策トシテ玄米食厲行ニ關スル質問主意書ニ對スル答辯書
一 玄米食厲行ニ對スル意見(第三、質問ノ諸點一、二及四)

政府ニ於テハ豫テ玄米食、半搗米食、七分搗米食及白米食ノ利害得失ニ付種種考究ヲ重ネ保健衛生並ニ食糧經濟上無砂搗ニシテ成ルベク多クノ胚芽ヲ殘存セシメタル七分搗程度ノ米ヲ以テ最モ適當ノモノト認メ之ニ基キ白米常食ノ廢止ヲ唱導シテ所謂胚芽殘存七分搗米ノ食用ヲ勸奨シ來リタルガ食糧經濟並ニ保健衛生上ノ見地ヨリシテ昭和十四年十一月米穀搗精等制限令ヲ設ケ米穀ノ搗精度ハ玄米ノ重量ニ對スル搗上リ米ノ重量ノ割合九割四分ヲ下ラザル限度ト定メタル次第ニシテ現在ノトコロ國民一般ガ常食トシテ玄米ヲ攝取スルヲ最適トハ認メ難シ

二 保健政策ノ再檢討云々ニ對スル意見(第三、質問ノ諸點三)
(第三、質問ノ諸點五)
三 國民教育云々ニ對スル意見(第三、質問ノ諸點五)

將來ノ參考ニ資シ度
四 會議設置ニ對スル意見(第三、質問ノ諸點六)
現在ノトコロ其ノ意思ナシ
右及答辯候也

昭和十六年二月十八日

厚生大臣 金光 庸夫
文部大臣 橋田 邦彦
農林大臣 石黑 忠篤

外貨獲得、圓貨回收及死藏商品流通ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也
昭和十六年二月四日

提出者 清水留三郎

外貨獲得、圓貨回收及死藏品流通ニ關スル質問主意書

一 外貨獲得、圓貨回收ニ關スル件

(イ) 七・七禁令ニ基キ販賣禁止トナツタ高級織物類ヲ現狀ノ儘徒ニ死藏セシムルハ國家ノ爲不得策ナリト思ハル政府ハ其等ノ織物類ヲ第三國若ハ圓「ブロック」内ノ各地ニ輸出販賣セシメテ外貨獲得、圓貨回收ノ方途ニ出ヅル計畫ハナイカ政府ノ從來採リ來ツタ方針、今後實行セントスル處置ニ付テ承リタイ
(ロ) 内地向ノ需用ニ製織セラレタ著尺織物ト雖モ裁斷ノ方法如何ニ依ツ

テハ婦人洋服、支那服並ニ一般下著
用等ニ利用シ得ルノデアル

政府ハ七・七禁令ニ基キテ販賣ヲ禁
止シタ其等高級織物類ヲ一手ニ買上
ガ一面國策ノ爲ニ犠牲トナツタ當業
者ヲ其ノ苦境ヨリ救ヒ他面死藏商品
ヲ以テ外貨獲得、圓貨回收ト云フ一
石二鳥ノ方策ニ出ヅル者ハナイカ
以上ノ目的遂行ノ爲特殊會社ヲ設立
シ其ノ業務ヲ擔任セシムル意思ハナ
イカ

(ハ) 七・七禁令ニ基キ販賣ヲ禁止シ
タ「ダイヤモンド」其ノ他ノ高級寶飾
品ハ内地現存一億數千萬圓ヲ超ユル
見込デアル

「ダイヤモンド」ノミニ付テ現ニ調査
スルニ當業者ノ所持スルモノ現在約
二千萬圓、更ニ民間ノ個人ノ所持ス
ルモノ即チ過去二三十年間ニ海外ヨ
リ輸入セラレテ需用者ニ業者ヨリ賣
ツタモノ、海外ヨリ需用者若ハ其ノ
關係者ノ持歸レルモノ等ヲ合計セバ
約一億萬圓ニ達スルノデアル

「ダイヤモンド」ハ世界共通ノ商品デ
アツテ世界何レノ市場ニ於テモ任意
ニ販賣シ得ル可能性ヲ有スルノデア
ル

外貨獲得、圓貨回收ハ刻下ノ急務デ
アル「ダイヤモンド」ノ如キ世界共通

ノ商品ヲ徒ニ國內ニ死藏セシメテ置
クコトハ策ヲ得タモノデナイ

其等ニ對スル政府ノ所見特ニ從來採
リ來ツタ方針並ニ今後政府ノ實施セ
ントスル處置ニ付テ承リタイ

(ニ) 民間個人ノ所持スル「ダイヤモン
ド」ハ販賣シタ商人ノ手ヲ經テ調査
セバ其ノ概要ハ知り得ラルルノデア
ツテ金ノ所在調査ヨリハ寧ロ容易デ
アル

政府ハ「ダイヤモンド」ノ價格ニ對ス
ル一定ノ標準ヲ定メ鑑定委員中ニ專
門ノ當業者ヲ包含セシメタナラバ其
ノ評價モ敢テ困難デハナク又ハ既設
ノ社團法人金銀製品商聯盟其ノ他ノ
機關ヲ通ジ若ハ特殊會社ヲ設ケテ買
上ゲ方法ヲ講ゼシムルトセバ金買上
ト同様ノ方法デ簡單ニ爲シ得ラルル
ト思ハレルノデアル

政府ハ進ンデ「ダイヤモンド」ヲ買上
グル者ハナイカ

(ホ) 買上ゲタ「ダイヤモンド」等ヲ海
外市場若ハ上海其ノ他ノ國「プロッ
ク」地域内ニ輸出販賣シ以テ外貨獲
得、圓貨回收ヲ爲サシムル目的ノ下
ニ特殊會社ヲ設立シテ其ノ事業ヲ擔
任セシムル計畫ハナイカ

二 死藏商品流通ニ關スル件

(イ) 鐵、銅其ノ他ノ金屬及金屬製品、

綿及綿絲布等ハ國民ノ生活上ニ於ケ
ル必需品デアツテ國策上止ムヲ得ザ
ルノデハアルガ國民ノ多數ハ其ノ配
給ノ減少ニ苦シミ生産擴充ノ上ニモ
少カラズ故障ヲ來シテ居ルノデアル
政府ノ曾テ告示シタ在庫品數量ノ申
告期間中ニ故意若ハ不注意ニテ其ノ
當時申告ヲ怠リ秘密裏ニ死藏シテ居
ルモノ各方面ニ相當多シト聞ク其等
死藏商品ノ現在高調査ハ實情頗ル困
難トハ思フガ政府ノ調ニ依ル各種目
別及見込數量並ニ金額等ニ付テ概要
ヲ承知致シタイ

(ロ) 右ノ未申告商品ニシテ依然當業
者ノ下ニ死藏セラレテルモノニ對シ
テ政府ハ從來如何ナル處置ヲ採ラレ
テ居ルノデアルカ

(ハ) 人ヲ賂レバ泥棒ト思ヘトノ觀念

ニ基テ檢舉第一主義ハ國策遂行上一
時止ムヲ得ナカツタノデアラウガ餘
リ感服シタモノデハナイ、惡質犯罪
及再犯以上ノモノニ對シテハ斷乎ト
シテ嚴罰主義デ臨ムベキガ當然デハ
アルガ不作爲ノ事犯、生活上餘儀ナ
キ違反ニ對シテハ克ク其ノ將來ヲ戒
メ再ビ罪ヲ犯サシメザルヤウニ換言
スレバ親心ヲ以テ即チ硬軟兩建ニテ
經濟事犯ヲ處理シテコソ、ソコニ初
テ社會ノ不安ヲ一掃セシムル所以ト

モノナルデアル

政府ノ經濟事犯ニ關スル根本的ノ觀
念ヲ此ノ際承リタイ

(ニ) 釘、コバケツ、脱脂綿、晒木綿
等相當ニ廣ク闇取引ガ行ハレテ居ル、
配給ノ品物ハ少イ、闇デ高クトモ買
ヒタイノガ人情デアル、闇取引ノ根
絶ハ中々困難デアル

政府トシテハ配給品以外賣品物ヲ
ナカラシムルヤウニ、當業者ノ死藏
品ヲナクナラシムルヤウナ方針ニ出
ヅルコトガ必要デハナイカ政府ノ所
見ハドウカ

(ホ) 金物類、綿絲布類其ノ他政府ガ
曾テ告示シテ在庫品數量ヲ一定ノ期
間内ニ申告セシメタニモ拘ラズ故意
若ハ不注意ニテ申告シナカツタ所謂
申告漏レノモノガ多ク闇市場ニ出現
シテ居ルカノ如ク察セラルルノデア
ル其等ノ品物ヲ根絶セシムル爲檢舉
第一主義デハ恐ラク其ノ效果ハ舉ゲ
得ラレマイ、政府ハ寧ロ此ノ際其等
ノ死藏品ニ對シテ一定ノ期間ヲ定メ
新シク更ニ申告セシムルノ機會ヲ與
ヘル者ハナイカ

(ハ) 新シク定メタ申告期間中ニ申告
シタ者ニ對シテハ特ニ其ノ罪ヲ免ジ
適當ノ方法ヲ以テ死藏品ヲ買上ゲ公

定價格ニテ既定ノ機關ヲ通ジテ一般需要者ニ流レシムルノ策ヲ講ズルコトガ必要デハナイカ

新定ノ期間内ニ申告セザル者ニ對シテハ死藏商品ヲ發見次第其ノ商品ヲ國家ニ沒收シ責任者ヲ嚴罰ニ處スルコトヲ規定スルコトガ適切デハナイカ

其等ニ對スル政府ノ見解ヲ承リタイ右及質問候也

昭和十六年二月十八日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿

衆議院議長小山松壽殿

衆議院議員清水留三郎君提出外貨獲得、圓貨回收及死藏商品流通ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員清水留三郎君提出外貨獲得、圓貨回收及死藏商品流通ニ關スル質問主意書ニ對スル答辯書

一、外貨獲得、圓貨回收ニ關スル件ニ關スル答辯

(一)七・七禁令ニ基キ販賣禁止トナリタル物品ヲ第三國若ハ圓ブロック地域ニ輸出シ外貨獲得、圓貨回收ヲ圖ルコト緊要ナルコトハ政府ニ於テモ夙ニ痛感スル所ナルモ七・七禁令品中ニハ第三國向輸出品トシテ所謂新規商品ト見做スベキモノ相當有之之ガ輸出

ヲ促進スルガ爲ニハ見本ノ頒布、宣傳ヲ圖ル必要アルニ鑑ミ七・七禁令品ニシテ第三國向輸出ニ適スル商品ニ付テハ差當リ政府ニ於テ夫々必要ナル助成方策ヲ講ジ見本ノ頒布宣傳ヲ爲シツツアルモ更ニ適當ノ機關(買取會社等ノ如キ)ヲシテ積極的ニ禁令品ノ買上ヲ爲サシメ當該商品ノ輸出促進ノ方途ヲ考究致度

尙七・七禁令品ニシテ圓ブロック地域向輸出ニ適スル商品ニ付テハ日本東亞輸出入組合聯合會其ノ他適當ナル團體(例ヘバ社團法人金銀製品商聯盟ノ如シ)ヲ通ジ圓ブロック地域殊ニ支那ニ對スル輸出ヲ圖ラシムベク銳意斡旋中ナリ

(二)七・七禁令ニ基キ販賣ヲ禁止セラレタルダイヤモンドノ輸出ニ關シテハ從來本邦ヨリ本品ヲ輸出シタル事例極メテ稀ナルノミナラズ其ノ價格ガカツトノ仕方、地質等ニ依リ異リ、海外市場ニテ競争可能ナル如ク價格ヲ設定スルコト困難ナル等ノ本品ノ特性ニ鑑ミ之ガ第三國向輸出方策ハ必ズシモ容易ナラザルモノト認メラルヲ以テ銳意考究スルコトト致度所存ナリ

一、死藏商品流通ニ關スル件ニ關スル答辯

(一)所謂未申告商品死藏商品ノ現在高調査ハ實際頗ル困難ニシテ從來特殊商品ニ付調査ヲ實施シ需給調整ニ資シ來タリタルモ物資全般ニ亙ル調査ヲ實施シタルコト無キ爲目下ノ處死藏品等ノ種目別數量別金額等ハ判明セズ而シテ商工省ニ於テハ昭和十六年二月十日附商工省令第七號「商工省所管重要物資現在高調査規則」ヲ公布シ差當リ國民生活必需物資タル毛織物、絹織物、人造絹織物、ステール・ファイバー織物、綿織物、更生絲織物、タオル、タオル地、煉炭、鐵丸釘、針金、鐵線、亞鉛メッキ、鋼板ノ十三品目ニ付現在高調査ヲ全國的ニ實施スルコトトシタリ尙本調査ハ毎年二回實施シ必要ナル商品ニ付テハ繰返シ調査ヲ行フ外、漸次他ノ重要物資ニ及ス方針ナリ

商工省ニ於テハ本調査實施ノ結果ヲ以テ之等物資ノ需給關係ノ調整ヲ圖ル爲必要ナル措置ヲ講ズル方針ナリ尙前記調査ニ當リテハ右ノ趣旨ニ則リ前記調査規則中ニ物資需給調整ノ見地ヨリ之ヲ爲スモノニシテ犯罪摘發ヲ目的トスルモノニ非ザルコトヲ明記シタリ

(二)經濟事犯ノ處理ニ付キテハ、終始惡質重大ナルモノノ糾彈ニ重點ヲ置キ

之ヲ嚴罰シテ一罰百戒ノ實ヲ擧ゲ、犯情輕微、法規不知ニ基ク場合其ノ他斟酌ヲ加フベキ情狀ノアルモノニ對シテハ寬容ノ態度ヲ以テ臨ム方針ヲ堅持致シ經濟統制ノ厲行確保ト治安ノ維持ニ萬全ヲ期シ居ル次第ナリ、而シテ法ヲ不知ニ基キ不知不識ノ間ニ罪ニ陥ルコトナキ様凡ユル機會ヲ利用シテ法令ノ趣旨内容ヲ國民ニ周知徹底セシメ犯罪ノ未然防止ニ努力致シ居ル次第ナルガ之ガ具體的施設トシテ經濟相談所ヲ開設シ法令ノ質疑應答、其ノ他經濟問題ニ關スル相談ニ應ジ以テ犯罪防止ニ遺憾ナキヲ期シツツアリ、之ヲ數字ニ依リテ見ルニ經濟警察實施以來昨年十月末迄ノ違反件數七十七萬七千餘件ノ內將來ノ遷善ヲ期待シ處罰セズシテ署長限リノ說諭ニ止メタルモノ六十八萬件以上ニ上ル次第ナリ、次ニ政府ノ行フ物資ノ在庫調査ハ經濟事犯ノ摘發ヲ目的トシテ之ヲ行フモノニ非ザルハ勿論ナルガ申告者ナルガ故ニ其ノ犯シタル罪ヲ免ズルトイフガ如キ取扱ヲ一般的ニ致スベキニ非ズ、其ノ罪ノ中ニハ惡質重大ナルモノモアルベク、夫レニモ拘ラズ悉ク之ヲ免ズルニ於テハ既ニ檢舉處罰セラレタル者トノ均衡ヲ失スルノミナラズ、

一度斯カル事例開カルルニ於テハ將來二度三度アルベキコトヲ豫想シ却テ違法精神ノ弛緩ヲ來スガ如キ面白カラザル影響モ考ヘラルルヲ以テ斯カル事ハ只今ノ處考ヘ居ラザル次第ナリ

右及答辯候也

昭和十六年二月十八日

商工大臣 小林 一三
内務大臣 男爵平沼騏一郎
司法大臣 柳川 平助

八絃一字ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

昭和十六年二月十三日

提出者 生田 和平
外一名

八絃一字ニ關スル質問主意書

近衛内閣總理大臣ハ昨年七月大命ヲ拜シテ内閣ヲ組織セラルルヤ基本國策ヲ聲明シ其ノ冒頭ニ於テ皇國ノ國是ハ八絃ヲ一宇トスル肇國ノ大精神ニ基キ世界平和ノ確立ヲ招來スルコトヲ根本トシ云々ト述ベラレタ即チ八絃一字ガ我が國是デアルト云フノデアアル

又去ル一月三十一日衆議院豫算委員第二分科會ニ於テ議員森田重次郎氏ノ質疑ニ對シ橋田文部大臣ヨリ八絃一字ノ理念ニ付答辯アリタルガ之ハ我が肇國ノ大精神ヲ述ベラレタルモノデアツテ事極メテ重

大デアルト思フ

一、近衛内閣總理大臣ハ八絃一字ノ原理ニ付如何ナル見解ヲ有セラルルノデア
ルカ

二、八絃一字ハ「掩八絃而爲字」ト同一意義デアるか

右及質問候也

昭和十六年二月十八日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
衆議院議長 小山松壽殿

衆議院議員生田和平君外一名提出八絃一字ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
〔別紙〕

衆議院議員生田和平君外一名提出八絃一字ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、八絃一字トハ神武天皇御食都ノ際下シ給ハリタル詔ノ中ニ

上ハ則チ乾靈ノ國ヲ授ケタマフ德ニ答ヘ、下ハ則チ皇孫ノ正ヲ養ヒ

タマヒシ心ヲ弘メム、然シテ後ニ六合ヲ兼ネテ以テ都ヲ開キ、八絃ヲ掩ヒテ字ト爲ムコト、亦可カラズヤ

ト仰セラレシニ基ヅクモノニシテ皇祖天照大神ノ國ヲ授ケ萬物ヲ生成化育セシメ給ヒシ御德ニ答ヘ、同時ニ皇孫ノ正ヲ養ヒ給ヒシ大御心ヲ弘メ、カクシテ皇祖天照大神ノ御德ノ光被ニヨリ天ノ下ヲ總ベテ一家ノ如ク親

和的ナル一體ヲシメントノ大御心ナリト拜察ス、從ヒテ八絃一字トハ國內ハ勿論廣ク各國ヲシテ夫々其ノ所ヲ得、相携ヘテ其ノ特性ヲ發揮シツツ世界ヲ霸然タル一家ノ如クナラシメントスル大御心ヲ表現シタルモノト解ス

二、八絃一字ハ「掩八絃而爲字」トノ大御心ト同様ノ意義ナリト思料ス

右及答辯候也

昭和十六年二月十八日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
文部大臣 橋田 邦彦

○副議長(田子「民君」) 本日ノ日程ニ掲ゲマシタ質問一乃至三ハ、何レモ政府ヨリ答辯書ヲ受領致シマシタ、仍テ日程ヨリ之ヲ省キマス——日程第一及第二ハ、便宜上一括議題トナスニ御異議アリマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○副議長(田子「民君」) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第一、借地法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——柳川司法大臣

第一 借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第二 借家法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

借地法中改正法律案

借地法中左ノ通改正ス

第四條 借地權消滅ノ場合ニ於テ借地權者カ契約ノ更新ヲ請求シタルトキハ建物アル場合ニ限り前契約同一ノ條件ヲ以テ更ニ借地權ヲ設定シタルモノト看做ス但シ土地所有者カ自ラ土地ヲ使用スルコトヲ必要トスル場合其ノ他正當ノ事由アル場合ニ於テ遲滞ナク異議ヲ述ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス

借地權者ハ契約ノ更新ナキ場合ニ於テハ時價ヲ以テ建物其ノ他借地權者カ權原ニ因リテ土地ニ附屬セシメタル物ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第五條 第一項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ建物アルトキハ土地所有者ハ第四條第一項但書ニ規定スル事由アルニ非サレハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前ニ設定シタル借地權ニ付亦之ヲ適用ス

借家法中改正法律案

借家法中左ノ通改正ス

第一條ノ二 建物ノ賃貸人ハ自ラ使用ス

ルコトヲ必要トスル場合其ノ他正當ノ事由アル場合ニ非サレハ貸借ノ更新ヲ拒ミ又ハ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 當事者カ貸借ノ期間ヲ定メタル場合ニ於テ當事者カ期間滿了前六月乃至一年內ニ相手方ニ對シ更新拒絕ノ通知又ハ條件ヲ變更スルニ非サレハ更新セザル旨ノ通知ヲ爲ササルトキハ期間滿了ノ際前貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ貸借ヲ爲シタルモノト看做ス

前項ノ通知ヲ爲シタル場合ト雖モ期間滿了ノ後賃借人カ建物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃借人カ遲滞ナク異議ヲ述ヘサリシトキ亦前項ニ同シ

第三條第二項ヲ削リ同條中「前條」ヲ「前條第二項」ニ改ム

第三條ノ二 一年未滿ノ期間ノ定アル賃借ハ之ヲ期間ノ定ナキモノト看做ス

附則

第六條中「前五條」ヲ「前七條」ニ改ム

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前ニ爲シタル建物ノ賃借ニ付亦之ヲ適用ス

ノ期間ヲ經過シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

本法施行ノ際現ニ存スル建物ノ賃借ニシテ本法施行後一年內ニ其ノ期間滿了スベキモノニ付當事者ガ其ノ期間滿了前一年內ニ相手方ニ對シテ爲シタル更新拒絕ノ通知又ハ條件ヲ變更スルニ非ザレバ更新セザル旨ノ通知ハ第二條第一項ノ期間內ニ爲サザルモノト雖モ之ヲ同條同項ノ期間內ニ爲シタルモノト見做ス

前項ノ場合ニ於テ賃借ガ期間ノ滿了ニ因リ終了シタルトキハ第四條ノ改正規定ニ拘ラス轉賃借モ亦終了ス

(國務大臣柳川平助君登壇)

○國務大臣(柳川平助君) 只今議題トナリマシタ借地法中改正法律案及ビ借家法中改正法律案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス

近來土地、建物ノ價格ガ漸次昂騰シ、又借地、借家ヲ求ムル者ガ次第ニ増加致シマシタ關係上、借地ニ付テ申シマス、地主ノ中ニハ其ノ土地ヲ他ニ利用スル必要カラ、借地契約ノ更新ヲ承諾シナイト云フヤウナ者モ出テ參リマシテ、是ガ爲メ借地人ハ建物ヲ他ニ移轉スルカ、或ハ地主ニ買取ヲ求ムルヨリ外ニ途ガナイト云フ事態ヲ生ズルニ至リマシタ、又借家ニ付テ申シマス、家主ノ中ニハ或ハ期間滿了ノ際契約ノ更新ヲ拒絕シ、或ハ解約ノ申入ヲナシテ、借家人ニ明渡ヲ求メ、其ノ建物ヲ他ニ有利ナ方面ニ利用スル向ガ少クナイト云フ状態

ト相成リマシタ、斯様ナ傾向ハ事變以來一層其ノ度ヲ加ヘ、大キナ社會問題トナツテ居リマシテ、到底傍觀スルヲ得ナイノデアリマス、勿論借地、借家ノ總數ヨリ申セバ、極メテ少數ノモノデハゴザイマスガ、住宅問題ハ國民特ニ都市生活者ノ重要ナル問題デアリマスノデ、之ヲ放置スルヲ許サナイノデアリマス、ソレデアリマスカラ借地、借家關係ヲ適當ニ調整致シマシテ、無用ナル爭ヒヲ避ケル爲メ、更新ノ拒絕及ビ解約ノ申入ニ付キ、制限ヲ加ヘントスルノデアリマス、即チ地主又ハ家主ハ、自ら使用スルコトヲ必要トスル場合、其ノ他正當ノ事由アル場合デナケレバ、更新ノ拒絕モ、解約ノ申入モ許サヌコトトシ、之ニ關聯スル二三ノ條文ヲ整理シタノガ本案デアリマス、勿論本改正案デハ善良ナル地主ヤ家主ヲ抑制スルト云フ趣旨ハ毛頭ナク、又惡質ナル借地人ヤ借家人ヲ保護スルノ趣旨モアリマセヌ、唯賃料滞納等ノ債務不履行ノナイ借地人ヤ借家人ガ、單ナル更新拒絕、又ハ解約ノ申入ニ依リ、建物ヲ失ヒ、住居ヲ追立テラレルコトヲ防止セントスルニ外ナラス

ノデアリマシテ、賃料ノ滞納アル場合ニ於キマシテハ、從來ト同様民法ノ規定ニ依リ契約解除等ノ手段ヲ講ジ、自己ノ權利ヲ擁護スルコトガ出來ルノミナラズ、本改正案ニ依リマシテ、所謂正當ノ事由アル場合トシテ、更新ノ拒絕又ハ解約ノ申入モ差支ヘ

ナイノデアリマス、隨テ本案ハ國民ノ債務履行ノ誠意ヲ弛緩サスト云フ心配ハゴザイマセヌ、此ノ法案ガ公布セラレマシタ曉ニ於キマシテハ、借地、借家ノ關係ハ圓滿ニ處理セラルト考ヘル次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(田子一民君) 各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市長 日程第一及ビ第二ノ兩案ヲ一括シテ、議長指名十八名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三、大正二年法律第九號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——柳川司法大臣

第三 大正二年法律第九號中改正法律案(裁判所管轄區域ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

大正二年法律第九號中改正法律案別表裁判所管轄區域表中浦和區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

八日市場

東金町	公平村	源村	山手村	白里町
豐海町	片貝町	正氣村	豐成村	成東町
日向村	大富村	南郷村	綠海村	上塚村
大平村	松尾町	陸岡村	豐岡村	大總村
二川村	千代田村			
香取郡ノ内				
常磐村	久賀村	多古町	東條村	日吉村
中村	飯高村	豐和村	古城村	中和村
				吉田村

同表中水戸區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

水戸

茨城縣ノ内	日立市	東茨城郡	西茨城郡	多賀郡
水戸市				
那珂郡ノ内				
那珂湊町	平磯町	前渡村	勝田町	佐野村
石神村	神崎村	額田村	菅谷村	五臺村
國田村	戸多村	芳野村	木崎村	瓜連町
鹿島郡ノ内				
夏海村	大谷村	沼前村	巴村	德宿村
鉾田村	新宮村	上島村	白島村	諏訪村

同表中太田區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

太田

茨城縣ノ内				
久慈郡				
那珂郡ノ内				
鹽田村	大場村	上野村	大宮町	大賀村
八里村	山方村	檜澤村	小瀬村	野口村
				長倉村

同表中新潟區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

新潟

新潟縣ノ内				
新潟市				
中蒲原郡ノ内				
新飯田村	須田村	庄瀬村	白井村	大郷村
根岸村	白根町	小林村	茨會根村	小須戸町
金津村	新津町	新關村	五泉町	橋田村
大蒲原村	十全村	村松町	橫越村	大江山村
川内村	川東村	曾野木村	兩川村	龜田町
大形村	鳥屋野村			石山村
西蒲原郡ノ内				
坂井輪村	内野町	赤塚村	角田村	松野尾村
浦濱村	間瀬村	岩室村	漆山村	和納村
鏡郷村	會根町	升瀧村	中野小屋村	黒崎村
四ツ合村	大原村	月瀧村	道上村	小吉村
				味方村

同表中新潟區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

新發田

新潟縣ノ内
北蒲原郡

同表中長岡區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

新潟縣ノ内				
長岡市	古志郡	北魚沼郡	中魚沼郡	
南蒲原郡ノ内				
大面村	今町	新瀧村	見附町	葛巻村
三島郡ノ内				
片貝村	來迎寺村	塚山村	岩塚村	深子村
王寺川村	宮本村	大穰村	關原町	日吉村
大津村	黒川村	與板町	桐島村	寺泊町
				脇野町

同表中柏崎區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

柏崎

新潟縣ノ内			
柏崎市	刈羽郡		
三島郡ノ内			
島田村	西越村	出雲崎町	

同表中六日町區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

六日町

新潟縣ノ内
南魚沼郡

同表中宮津區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

宮津

京都府ノ内				
與謝郡ノ内				
宮津町	栗田村	上宮津村	吉津村	石川村
與謝村	加悅町	三河内村	岩屋村	市場村
岩龍町	府中村	日置村	世屋村	桑飼村
朝妻村	本庄村	筒川村	日ヶ谷村	山田村
				伊根村

同表中峯山區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

峯山

京都府ノ内			
中郡	竹野郡	熊野郡	
與謝郡ノ内			
野間村			

同表中脇町區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

脇町

德島縣ノ内		
美馬郡	三好郡	
麻植郡ノ内		
木屋平村		

同表中川島區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

川島

德島縣ノ内				
阿波郡				
麻植郡ノ内				
牛島村	森山村	西尾村	鴨島町	川島町
東山村	山瀬町	川田町	三山村	中枝村
				學島村

同表中岐阜區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

岐 阜
岐阜縣ノ内 岐阜市 加茂郡ノ内 田原村 益田郡ノ内 下原村
稻葉郡 羽島郡 本巢郡 山縣郡 武儀郡
富岡村

同表中高山區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

高 山
岐阜縣ノ内 高山市 益田郡ノ内 萩原町 川西村
大野郡 吉城郡 小坂町 朝日村
竹原村 高根村 上原村 中原村

同表中福井區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

福 井
福井縣ノ内 福井市 丹生郡ノ内 越廬村 三方村
足羽郡 吉田郡 坂井郡 國見村
下畔村 天津村 殿下村 志津村
西安居村

同表中武生區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

武 生
福井縣ノ内 南條郡 丹生郡ノ内 朝日村 宮崎村 常盤村
今立郡 立待村 白山村 糸生村
吉川村 城崎村 四箇浦村 吉野村
豐村 織田村 大虫村 萩野村

同表中高岡區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

高 岡
富山縣ノ内 高岡市 射水郡 西礪波郡ノ内 國吉村
氷見郡 小勢村 石堤村 赤丸村
福岡町 立野村 五位山村 東五位村
福田村 西五位村

同表中出町區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

出 町
富山縣ノ内 東礪波郡ノ内 石動町 荒川村 廣瀬村 東石黒村 水島村
南谷村 子撫村 廣瀬館村 津澤町 應栖村
埴生村 宮島村 西太美村 西野尻村 戸出町
松澤村 福光町 太美山村 東礪波村 北礪波村 高波村
若林村 石黒村 東太美村 吉江村 北礪波村 高波村
正得村 南礪波村 南礪波村 吉江村 北礪波村 高波村

同表中山口區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

山 口
山口縣ノ内 山口市 阿武郡ノ内 篠生村
防府市 佐波郡 吉敷郡 美禰郡
生雲村 地福村 德佐村

同表中萩區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

萩
山口縣ノ内 萩市 阿武郡ノ内 吉部村 福賀村 見島町
大津郡 明木村 福川村 須佐町
佐々並村 川上村 大井村 小川村
嘉年村 奈古村 江崎町 六島村

同表中玉島區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

玉 島
岡山縣ノ内 倉敷市 淺口郡ノ内 淺口町 金光町 都窪郡ノ内 帶江村 三須村 吉備郡ノ内 岡田村 蘭村
連島町 鴨方町 里庄村 寄島町 六條院町 長尾町 富田村 黒崎村
菅生村 中洲町 清音村 常盤村 山手村
川邊村 二万村 山田村 久代村 秦村
新本村 二万村 山田村 久代村 秦村
吳妹村 箭田村 神在村

同表中笠岡區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

笠 岡
岡山縣ノ内 小田郡 淺口郡ノ内 大島村
後月郡

同表中長崎區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

長 崎
長崎縣ノ内 長崎市 西彼杵郡ノ内 茂木町 高濱村 日見村 時津村 江島村 雪浦村 北高來郡ノ内 江ノ浦村
深堀村 野母村 矢上村 村松村 平島村 神浦村 田結村 戸石村 古賀村
香焼村 臨岬村 喜々津村 大草村 龜岳村 多良村 三重村 式見村 福田村
蚊燒村 津島村 伊王島村 川原村 伊木力村 大串村 瀬戸町 松島村 高島村

同表中大村區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

大村	長崎縣ノ内 諫早市 東彼杵郡ノ内 大村町 千綿村 北高來郡ノ内 森山村	三浦村 彼杵町 深澤村 小江村	鈴田村 川棚町 菅瀬村 湯江町	福重村 上波佐見町 松原村
----	---	--------------------------	--------------------------	---------------------

同表中杵築區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

杵築	大分縣ノ内 速見郡ノ内 杵築町 八坂村 南端村 東國東郡ノ内 富來町 中武藏村 奈狩江村 西國東郡ノ内 朝田村	豐岡町 北杵築村 日出町 東山香村 藤原村 中山香町 川崎村 大山村 上村 豐崎村 朝來村 國東町 旭日村 武藏町 南安岐村 西安岐町 安岐町
----	---	---

同表中中津區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

中津	大分縣ノ内 中津市 宇佐郡ノ内 天津村 八幡村 四日市町 南院內村	下毛郡 長峯村 柳ヶ浦町 豐川村 明治村 龍王村	横山村 長洲町 兩川村 安心院町 津房村	麻生村 宇佐町 高並村 糸口村 高家村 西馬城村 院內村 佐田村
----	---	---	----------------------------------	---

同表中玉津區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

玉津	大分縣ノ内 西國東郡ノ内 高田町 草埔村 三浦村 東國東郡ノ内 竹田津町 速見郡ノ内 立石町 宇佐郡ノ内 封戸村	河內村 吳崎村 香々地町 伊美村 熊島村 來浦町	田染村 西眞玉村 三眞玉村 熊毛村	東都甲村 西都甲村 白眞玉村
----	--	---	----------------------------	----------------------

同表中延岡區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

延岡	宮崎縣ノ内 延岡市 西臼杵郡ノ内 諸塚村	東臼杵郡 椎葉村
----	-------------------------------	-------------

同表中高千穂區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

高千穂	宮崎縣ノ内 西臼杵郡ノ内 高千穂町 三ヶ所村	上野村 田原村 岩戸村 七折村 岩井川村 鞍岡村
-----	---------------------------------	---

同表中仙臺區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

仙臺	宮崎縣ノ内 仙臺市	互理郡 名取郡 宮城郡 黒川郡
----	--------------	--------------------------

同表中大河原區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

大河原	宮崎縣ノ内 柴田郡	刈田郡 伊具郡
-----	--------------	------------

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前從前ノ管轄裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

(國務大臣柳川平助君登壇)

○國務大臣(柳川平助君) 只今議題トナリマシタ大正二年法律第九號中改正法律案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス

大正二年法律第九號、即チ裁判所管轄區域ニ關スル法律ノ施行以來、交通機關ノ變遷ノ著シキモノガゴザイマシテ、之ニ伴ヒ各地町村ノ中ニハ、其ノ所轄區裁判所ノ管轄ヲ變更スルコトヲ、是非トモ必要トスルモノヲ生ジタノデゴザイマス、加之市制若シクハ町制ノ施行、市町村ノ廢合等ガ行ハレ、又ハ其ノ名稱ノ變更セラレタモノモ少クナイノデアリマス、仍テ右法律ノ別表デ

アリマスル裁判所管轄區域表中改正ヲナス必要ガゴザイマシテ、茲ニ本法案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒慎重御審議ノ上御協賛アラシコトヲ御願ヒ致シマス

○副議長(田子一民君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、民法中改正法律案外二件委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第四、船舶保護法案ノ第一讀會ヲ開キマス——及川海軍大臣

第四 船舶保護法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

船舶保護法案

船舶保護法

第一條 本法ハ戰時事變其ノ他ノ場合ニ於テ帝國ノ通商航海ニ脅威ヲ受ケ又ハ受ケルノ虞アルトキ敵襲其ノ他ノ軍事の危害ニ對シ船舶ヲ保護スルヲ以テ目的トス

第二條 海軍官憲ハ戰時事變其ノ他ノ場合ニ於テ船舶保護上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ運航業者、船舶所有者又ハ船長(船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ對シ船舶ノ航海、碇泊、通信、裝備、乗組員、乘客、積荷其ノ他ニ關シ臨機必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第三條 海軍大臣ハ戰時事變其ノ他ノ場合ニ於ケル船舶保護ノ爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ運航業者又ハ船舶所有者(船舶製造ノ注文者ヲ含ム以下第四條第一項ヲ除クノ外之ニ同ジ)ニ對シ船舶ノ設備又ハ乗組員ノ整備ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第四條 海軍官憲ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ指示ニ係ル事項ニ關シ必要アルトキハ運航業者、船舶所有者若ハ船長ニ對シ報告ヲ爲サシメ又ハ船舶其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ検査ヲ爲スコトヲ得

第五條 第二條又ハ第三條第一項ノ指示ニ從ハザル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 船長ガ第二條ノ指示ニ依リテ爲ス職務ノ遂行ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 運航業者又ハ船舶所有者ハ支配人其ノ他ノ代理人又ハ船長其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第五條又ハ前條第二項前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

第八條 第五條及第六條第二項前段ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第十條 第五條及第六條第二項前段ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第十一條 本法中運航業者又ハ船舶所有者ニ關スル罰則ハ國又ハ道府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ニハ之ヲ適用セズ

第十二條 本法ハ陸海軍ニ屬スル船舶ニ付テハ之ヲ適用セズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣及川古志郎君登壇〕

提出理由ヲ說明致シマス

近代ノ戰爭ハ從來ト著シク其ノ趣キヲ異ニ致シテ參リマシテ、國家總力戰ノ形態ヲ執ルニ至ツテ參ツタノデゴザイマス、然ルニ帝國ノ現狀ハ、戰爭遂行ノ上ノミナラズ、又國民生活維持ノ上ニ於キマシテモ、海上通商ニ依存ヲ要スルコト極メテ多キモノガゴザイマス、隨テ是ガ確保ハ洵ニ重大ナコトトナツテ參ツタノデゴザイマス、右様ノ狀況ハ世界各國共概ネ同様デゴザイマシテ、一タビ開戰トナリマスナラバ、戰爭目的達成ノ爲メ、全面的ニ相手國海上通商ノ破壊ヲ企圖スベキコトハ、必然ト考ヘナケレバナラナイノデゴザイマス、此ノ前ノ世界大戰及ビ現ニ行ハレテ居リマス歐洲戰爭ニ付テ見マスルモ、今後益、其ノ然ルベキヲ明カニ示シテ居ルノデゴザイマス、戰時事變

又ハ其ノ他ノ場合ニ於キマシテ、我が國ノ通商航海ニ脅威ヲ受ケマスコトハ、國家死活ノ問題デアリ、是非トモ之ヲ確保致サネバナラナイノデゴザイマス、斯カル場合海軍ト致シマシテモ、所要ノ向ニ對シマシテ、船舶保護上必要ナル指示ヲ與ヘマスト共ニ平時ヨリ是ガ準備ト致シマシテ、船舶ノ設備又ハ乗組員ノ整備ニ關シマシテ、保護上必要ナル處置ヲ講ズルノ要ガアルノデゴザイマス

以上申述ベマシタ理由ニ依リマシテ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、何卒十分ニ御審議ノ上速カニ御協賛ヲ與ヘラレニコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(田子一民君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、東亞海運株式會社法案外一件委員ニ併セ付託セラレニコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、外國爲替管理法改正法律案、不動產融資及損失補償法中改正法律案、臨時資金調整法中改正法律案、兌換銀行券條例ノ臨時特例ニ關スル法律案、朝鮮銀行法及、銀行法ノ臨時特例ニ關スル法律案、朝鮮銀行法中改

ル爲ニ、對外決濟方法ニ關シ、積極的ニ必要ナル統制ヲ加ヘ得ル規定ヲ設ケタイト云フ點ガ一ツデアリマス、第二ハ外貨資金等ニ關シ、其ノ保全的措置若シクハ活用方法ヲ講ズル爲メ、必要ナル統制ヲ加ヘ得ルヤウニ、規定ノ内容ヲ變更致シタイト云フ點デアリマス、第三ハ本邦ノ對外經濟權益ヲ擁護スル爲ニ、場合ニ依ツテハ外國人關係ノ本邦内ニ於ケル所ノ財産ノ取得、又ハ處分等ニ關スル必要ナル取締ヲナシ得ル規定ヲ設ケルト云フ點デアリマス、第四ハ爲替銀行ヲ通ジテナス所ノ取引ニ對スル統制ガ整備シ強化セラルルニ伴ツテ、漸次近頃殖エツツアル所ノ銀行ヲ通ジナイデナサル所ノ對外決濟ニ關スル取締ヲ強化スル爲ニ、必要ナル所ノ規定ヲ設ケタイト云フデアリマス、第五點ハ爲替管理ニ關スル事務ノ中デ、急速且ツ簡易ニ處理スル必要アルモノニ對シテハ、日本銀行其ノ他政府ノ指定スルモノヲシテ之ヲ取扱ハシムル、斯ウ云フ規定ヲ設ケントスル點デアリマス、第六ハ從來現行法運用ノ經驗ニ徴シ、補整ヲ必要ト認メル所ノ事項ニ關スル規定ヲ、新設又ハ追加シヨウト云フ點デアリマス、右六點ガ改正ノ要點デアリマス

委員會ハ去ル十日成立致シマシタ、本案ノ改正ガ洵ニ廣汎デアリ、隨テ其ノ實施ノ内外ニ及ボス所、極メテ重大ナルモノアルニ鑑ミマシテ、十日以來十七日マデ、連日前後六回ニ互ツテ慎重審議ヲ遂ゲ、又政府ニ於テモ審議ニ先ダチ特ニ秘密會ノ要求ガアリマシテ、國際收支、在外資金其ノ他金融ノ現況ニ關シ詳細ナル説明ガアツタノデアリマス、隨テ委員會ニ於ケル質疑應答モ、獨リ本案ノ内容ノミニ止マラズ、廣ク國際金融全般ニ關スル事項ニ付テ、終始熱心ニ行ハレタノデアリマスガ、詳細ハ速記録ニ譲リマシテ、其ノ主ナル質問ニ付キ御報告ヲ申上ゲタイト思ヒマス

第一ノ質問ハ、本案ノ實施ノ國民經濟ニ及ボス影響ハ、極メテ重大デアリ又機微デアルト思フ、是ガ施行ニ當ル政府當局ノ心構ヘヲ承リタイト云フ質問デアリマシタ、之ニ對シ政府ハ、本爲替管理ハ資本逃避防止法以來古キ歴史ヲ持ツテ居ル、又總動員法ニ基ク諸般ノ法規等ニ先ダツテ統制ノ經濟ヲ持ツテ居ル、隨テ假令其ノ内容ガ強化セラレテモ、此ノ古キ歴史ト經驗トニ依リ圓滿ナル施行ニ遺憾ナキヲ期スル覺悟デアアル、併シナガラ尙ホ十分慎重ヲ期シテ之ヲ行ヒタイト云フ答辯ガアリマシタ

第二ハ、外國人ノ本邦内ニ於ケル所ノ財産ノ取得又ハ處分等ヲ取締ル結果、本邦人ノ在外財産等ニ付テ、當該國カラ報復的措置ヲ執ラレル所ノ懸念ガナイカドウカ、斯ウ云フ質問ガアツタノデアリマス、政府ハ、本取締ハ外國ノ執ラントスル對日經濟壓迫措置ヲ牽制スル爲メ、又ハ既ニ執ラレテ居ル所ノ左様ノ措置ヲ撤回又ハ緩和セシメル爲ノ防衛的若クハ報復的手段トシテ行フモノデアアル、故意ニ敵性ヲ包含スルモノデナイカラ、右様ノ懸念ハナイト考ヘル、尙ホ是ガ運用ニ付テハ、情勢ヲ推移ニ鑑ミ特ニ慎重ヲ期スル考ヘデアルト答辯セラレタノデアリマス

第三ハ、第三條ノ命令權ハ相當範圍ニ及ブガ故ニ、是ガ爲ニ關係者ガ多大ノ損害ヲ蒙ル場合ガアルコトヲ豫想セラレル、其ノ補償對策ガアルカドウカト云フ質問デアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、本命令權ハ右在外財産ノ保全活用ノ國家的見地カラ發動スルノデアアルカラ、別途五億圓ヲ限リ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ依リ善處スルノデアアル、尙ホ不足スル最惡ノ場合ニ付テハ御協賛ヲ得ル機會ガアルト信ズル、斯ウ云フ答辯ガアリマシタ、更ニ其ノ補償ノ範圍及ビ方法ニ付キ質問應答ノ末、政府ハ、事件ガ如何ナル形ニ於テ終始スルカガ問題デアアルガ、其ノ際ノ事情ニ應ジテ適當ノ處置ヲ講ジ、我ガ國人ノ海外發展ノ基礎ヲ壞サナイヤウニ全力ヲ盡スト云フコトヲ聲明セラレタノデアリマス

第四ハ、第四條ノ命令權ハ支拂協定等ヲ締結スル特定國トノ決濟ニ關シ發動スルモノカト云フ質問ガアリマシタ、政府ハ、本條ノ命令權ハ締結國トノ決濟ノ外、廣ク諸外國トノ間ノ取引ノ圓滿ヲ圖ル爲ニ發動スル旨答辯セラレタノデアリマス

第五ニ、圓「ブロック」ノ爲替關係ニ付テ質問應答ガ重ネラレタノデアリマス、其ノ末政府ハ深甚ノ注意ヲ圓「ブロック」取引關係ニ付テハ拂フト云フコトヲ誓ハレ、且ツ滿洲ノ國幣、北支ノ聯銀券、中支ノ中央儲備銀行券ニ對シテハ、極力支持ノ方策ヲ立テテ居ル、斯ウ云フコトヲ述ベラレタノデアリマス

以上ヲ以テ質疑ヲ終了致シマシタ、作田委員カラ討論ヲ用ヒズ採決ニ入ラレタイト云フ動議ヲ提出セラレ、採決ノ結果起立議員、政府提案ノ通り可決致シマシタ

アト七案ヲ一括シテ御報告致シマス、不動産融資及損失補償法中改正法律案ハ、事變下ノ經濟情勢ニ鑑ミ、不動産融資及損失補償法ニ依リ不動産資金ノ融通期間及ビ融通期限ヲ三箇年延長スル、同時ニ審査會ノ合併ヲ致シタイト云フ案デアリマス

第三ハ、臨時資金調整法中改正法律案、此ノ法案ニ付テハ改正ノ内容ガ二ツアリマス、一ツハ支那事變ノ進展ニ伴ヒ生産力擴充資金其ノ他時局ニ緊要ナル資金ノ供給圓滑ヲ期スル爲ニ、興業銀行ノ債券ノ發行限度及ビ其ノ元利ニ對スル政府ノ保證限度ヲ、十億圓カラ二十億圓ニシヨウト云フ改正デアリマス、第二ハ、事變ノ長期化並ニ高度國防國家建設ノ要請ニ依リ、多額ノ撒布資金ガ出來ルノデアアルガ、ソレヲ吸收シ、國民貯蓄ノ増加ヲ圖ル爲ニ、貯蓄債券ヲ現在ノ限度、即チ五億圓ノ限度ヲ倍ニシテ十億圓限度ニシタイ、斯ウ云フ案デアリマス

第四ハ、兌換銀行券條例ノ臨時特例ニ關スル法律案デアリマス、事態ノ現狀及ビ將來ノ推移ニ鑑ミ、正貨準備ニ依リ發行ト保證準備ニ依リ發行トヲ區別スル現行兌換券發行制度ヲ停止シテ、兌換券發行限度ハ政府諸般ノ經濟金融政策ト睨合ハセテ大藏大臣ノ決定スルコトニシタイ、ソレカラ兌換銀行券ノ種類及ビ發行高ニ關スル公告ノ方

法ニ付テモ大藏大臣ノ權限ニシタイ、但シ恆久の立法トスルニハ尙ホ考慮ノ餘地ガアルカラ、暫時臨時特例ト致シタイ、斯ウ云フ案デアリマス

第五ハ、朝鮮銀行法及ビ臺灣銀行法ノ臨時特例ニ關スル法律案デアリマス、是ハ大體ニ於テ曩ニ述ベマシタル兌換銀行券發行條例ニ關スル臨時特例ノ法律案ト同ジ提案理由デアリマス、唯兩銀行ハ兌換銀行券ニ對シ特異ノ依存關係ガアリマスカラ、兩銀行ノ兌換性確保ノ爲ニ一定保證ヲ命ズルノ規定ヲソコニ加ヘタイ、第二ニ日本銀行ニ對スル預ケ金ヲ保證物件中ニ加ヘタイ、斯ウ云フ案デアリマス

第六ハ朝鮮銀行法中改正法律案、第七ハ臺灣銀行法中改正法律案、前者ハ創立當時カラ納付金制度ガアリマス、併シナガラ其ノ後同行銀行券ノ發行限度ガ屢々擴張セラレテ居ルノデアリマス、隨テ此ノ特權ニ基テ收得利益ト云フモノガ、洵ニ多キニ過ギルト言ウテモ宜イ位デアアル、隨テ其ノ納付金ヲ増加シヨウ、斯ウ云フ案デアリマス、後者ノ方ハ未ダ納付金制度ハアリマセス、併シナガラ同ジ理由デ同様ノ取扱ヒヲナサウ、即チ納付金制度ヲ設ケテ之ニ對シテ一定ノ納付ヲセシメヨウ、斯ウ云フ案デアリマス

第八ハ産業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案デアリマス、是ハ農山漁村ノ經濟事情竝ニ一般金融ノ情勢ニ鑑ミ、信用組合及ビ信用組合聯合會ノ固定セル債權ヲ資金化シヨウ、以テ産業組合金融

ノ流通ヲ圖ラウト云フコトガ目的デ制定セラレタ法律デアリマス、其ノ融通期間ガ本年九月末日ニ於テ滿了スルノデアリマス、仍テ其ノ實績ノ良好、産業組合ノ現狀竝ニ現下ノ經濟事情ニ考ヘテ、更ニ三箇年其ノ融通期間及ビ融通期限ヲ延長シヨウト云フ案デアリマス

右諸案ニ付テ適切ナル質問ガアリ、又之ニ對シテ政府ノ詳細ナル答辯ガアリマシタガ、之ヲ一々申上ゲルト長クナリマスノデ、詳細ハ速記録ニ依ツテ御覽ヲ願フヤウニ御諒承願ヒタイト思フノデアリマス、最後ニ右申述べマシタ各案ニ付テ採決致シマシタ所、全會一致政府ノ提案通り、即チ全會一致原案ノ通り可決サレタノデアリマス、右御報告ヲ致シマス(拍手)

○副議長(田子「民君」) 八案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○副議長(田子「民君」) 御異議ナシト認メマス、仍テ八案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ八案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

外國爲替管理法改正法律案 第二讀會(確定議) 不動產融資及損失補償法中改正法律案 第二讀會(確定議) 臨時資金調整法中改正法律案 第二讀會(確定議) 兌換銀行券條例ノ臨時特例ニ關スル法律案 第二讀會(確定議) 朝鮮銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ關スル法律案 第二讀會(確定議) 朝鮮銀行法中改正法律案 第二讀會(確定議) 臺灣銀行法中改正法律案 第二讀會(確定議) 産業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案 第二讀會(確定議) 副議長(田子「民君」) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、八案トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

輸出補償法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告) 報告書 一 輸出補償法中改正法律案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也 昭和十六年二月十八日 委員長 川島正次郎 衆議院議長小山松壽殿 (川島正次郎君登壇) ○川島正次郎君 只今議題トナリマシタ輸出補償法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、輸出貿易ノ振興ガ我が國現下ノ經濟狀態ニ鑑ミマシテ、極メテ緊切ナルコトハ言フマデモナイノデアリマス、然ルニ現下ノ國際情勢ハ、輸出ニ關聯シテ起ルベキ危險ヲ、政府ニ於テ何等カノ形式ニ於テ保護スルニアラザレバ、輸出業者ガ積極的ニ輸出スル氣分ヲ失フ虞ガ多分ニアルノデアリマシテ、此ノ傾向ヲ一掃シマシテ、安シジテ輸出ノ維持増進ヲ期スルヲ目的ト致シマシテ、今回ノ改正案ヲ提出シタ譯デアリマス、其ノ改正ノ要點ハ、第一ハ、從來輸出業者ニ對シマシテ金融上ノ便宜ヲ與ヘルコトヲ目的ト致シマシタ甲種補償、竝ニ保險的ニ損失ヲ補填スルコトヲ目的ト致シマシタ乙種補償ノ區別ヲ撤廢致シマシテ、之ヲ單一化シマシタ、第二ハ、從來政府ガ損失補償ノ限度ヲ百分ノ八十ト致シテ居リマシタノヲ、百分ノ九十ニ引上ゲタノデアリマス、是ガ爲ニ補償限度ガ從

來二千五百七十八萬餘圓デアリマシタノヲ、法律改正ノ結果ト致シマシテ、二億六千二百萬餘圓ヲ増加致シマシテ、會計二億八千七百九十餘萬圓ニ相成ツタノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ慎重審議ノ結果原案ヲ認メルコトニ致シマシタ、以上簡單ナガラ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス(拍手)

○副議長(田子「民君」) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子「民君」) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子「民君」) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子「民君」) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

輸出補償法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○副議長(田子「民君」) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、東亞

海運株式會社法案ヲ議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子「民君」) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子「民君」) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——東亞海運株式會社法案、第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長平川松太郎君

東亞海運株式會社法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一東亞海運株式會社法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月十八日

委員長 平川松太郎

衆議院議長小山松壽殿

〔別紙〕

(小字ハ委員會修正)

東亞海運株式會社法案中左ノ通修正ス

第十條 社長及副社長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

東亞海運株式會社ヲ監督スル官廳ノ官吏タルシ者ハ退職後五年間ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ東亞海運株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ

〔平川松太郎君登壇〕

○平川松太郎君 東亞海運株式會社法案ノ委員會ノ經過ト結果ヲ御報告申上ゲマス、本法案ノ目的トスル所ハ、大東亞共榮圈確立目的達成ノ爲ニハ、海上ノ交通網ノ整備擴充ヲ圖ルコトガ必要デアリマス、殊ニ支那ニ於テ我ガ航權ヲ擴充強化スル爲ニハ、曩ニ東亞海運株式會社ヲ設立致シマシタガ、其ノ使命ヲ全ウスル爲ニ、同會社ヲ改組擴大スルコトガ要務デアリマスカラ、茲ニ東亞海運株式會社ヲ制定スル所以デアルト政府ハ説明シテ居リマス、其ノ資本金ハ一億圓デアリマシテ、從來ノ東亞海運株式會社、是ハ拂込金額七千三百萬圓アル、此ノ元ノ東亞海運株式會社ヲ、新タニ設立致シマス所ノ東亞海運株式會社ニ吸收合併スルノデアリマス、又政府ハ出資スルコトガ出來マシテ、其ノ出資ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ目的トナスコトガ出來ルノデアリマス、利益ノ配當ハ年六分ニ達シナイ時ハ、政府ハ五箇年間ヲ限リマシテ、六分マデ補給スルコトガ出來ル、社債ハ拂込株金額ノ三倍マデ募集スルコトガ出來ルト云フノガ、大體ノ骨子デアアルノデアリマス、質問應答ガ盛ニ交ハサレマシタガ、其ノ主ナモノダケ簡單ニ御紹介ヲシテ置キタイト考ヘマス

先ヅ第一ニ質問セラレタ要點ハ、初メ東亞海運株式會社ガ設立致シマシタ時ニハ、朝鮮郵船並ニ大連汽船、此ノ對支航路ノ統一元化ガ問題ニナツタノデアリマスルガ、今日マデ是ガ實行セラレテ居ナイ、是等ノ競合對支航路ヲ東亞海運株式會社ニ統合セシメマシテ、サウシテ日滿支海運ノ一元化ヲ圖ラナケレバナナイと思フガ、政府ノ考ヘハドウカト云フ質問ガアリマシタ、逓信大臣ノ御答辯ハ、東亞海運株式會社ガ國策會社トナル以上ハ、競合航路ノ統一ト云フコトハ最モ必要デアルト思フ、斯ウ云フ御答辯デアリマシタガ、大野朝鮮政務總監、荒川對滿事務局次長ノ答辯ハ、現地ノ事情カラ推シテ現在ノ狀況ガ適當デアルト云フヤウナ意味ノ御答辯デアツタノデアリマス、即チ統合ニ贊成セラレナイヤウナ意味ノ御答辯ガアリマシタカラ、今日更ニ之ニ對シマシテ強イ意見ノ發表、質問ガアツタノデアリマス、ソレニ對シマシテモ、逓信大臣ノ御答辯ハ洵ニ御尤モナ御質問デアアル、會テ東亞海運株式會社ガ設立致シマシタ時ニモ閣議ニ於テ決定シテ居ツタノデアアルガ、未ダニ實行ガ出來ナカツタ、今回東亞海運株式會社ガ、是ハ國策會社トシテ設立セラレルノデアリマスルカラ、無論一元化ヲ圖ルト云フコトガ最モ必要デアアルカラ、此ノ點ニ對シテハ十分一元化ヲ圖ルヤウニ努力スルト云フ、逓信大臣ノ答辯ガアツタノデアリマス

其ノ次ニハ船舶ノ運賃、運賃ノ共同計算制度ハ、正確ニ之ヲ實施スルト云フコトハ困難デアルト思フガ、政府ノ方針ハ果シテ

亞海運株式會社ガ設立致シマシタ時ニハ、朝鮮郵船並ニ大連汽船、此ノ對支航路ノ統一元化ガ問題ニナツタノデアリマスルガ、今日マデ是ガ實行セラレテ居ナイ、是等ノ競合對支航路ヲ東亞海運株式會社ニ統合セシメマシテ、サウシテ日滿支海運ノ一元化ヲ圖ラナケレバナナイと思フガ、政府ノ考ヘハドウカト云フ質問ガアリマシタ、逓信大臣ノ御答辯ハ、東亞海運株式會社ガ國策會社トナル以上ハ、競合航路ノ統一ト云フコトハ最モ必要デアルト思フ、斯ウ云フ御答辯デアリマシタガ、大野朝鮮政務總監、荒川對滿事務局次長ノ答辯ハ、現地ノ事情カラ推シテ現在ノ狀況ガ適當デアルト云フヤウナ意味ノ御答辯デアツタノデアリマス、即チ統合ニ贊成セラレナイヤウナ意味ノ御答辯ガアリマシタカラ、今日更ニ之ニ對シマシテ強イ意見ノ發表、質問ガアツタノデアリマス、ソレニ對シマシテモ、逓信大臣ノ御答辯ハ洵ニ御尤モナ御質問デアアル、會テ東亞海運株式會社ガ設立致シマシタ時ニモ閣議ニ於テ決定シテ居ツタノデアアルガ、未ダニ實行ガ出來ナカツタ、今回東亞海運株式會社ガ、是ハ國策會社トシテ設立セラレルノデアリマスルカラ、無論一元化ヲ圖ルト云フコトガ最モ必要デアアルカラ、此ノ點ニ對シテハ十分一元化ヲ圖ルヤウニ努力スルト云フ、逓信大臣ノ答辯ガアツタノデアリマス

其ノ次ニハ船舶ノ運賃、運賃ノ共同計算制度ハ、正確ニ之ヲ實施スルト云フコトハ困難デアルト思フガ、政府ノ方針ハ果シテ

先ヅ第一ニ質問セラレタ要點ハ、初メ東亞海運株式會社ガ設立致シマシタ時ニハ、朝鮮郵船並ニ大連汽船、此ノ對支航路ノ統一元化ガ問題ニナツタノデアリマスルガ、今日マデ是ガ實行セラレテ居ナイ、是等ノ競合對支航路ヲ東亞海運株式會社ニ統合セシメマシテ、サウシテ日滿支海運ノ一元化ヲ圖ラナケレバナナイと思フガ、政府ノ考ヘハドウカト云フ質問ガアリマシタ、逓信大臣ノ御答辯ハ、東亞海運株式會社ガ國策會社トナル以上ハ、競合航路ノ統一ト云フコトハ最モ必要デアルト思フ、斯ウ云フ御答辯デアリマシタガ、大野朝鮮政務總監、荒川對滿事務局次長ノ答辯ハ、現地ノ事情カラ推シテ現在ノ狀況ガ適當デアルト云フヤウナ意味ノ御答辯デアツタノデアリマス、即チ統合ニ贊成セラレナイヤウナ意味ノ御答辯ガアリマシタカラ、今日更ニ之ニ對シマシテ強イ意見ノ發表、質問ガアツタノデアリマス、ソレニ對シマシテモ、逓信大臣ノ御答辯ハ洵ニ御尤モナ御質問デアアル、會テ東亞海運株式會社ガ設立致シマシタ時ニモ閣議ニ於テ決定シテ居ツタノデアアルガ、未ダニ實行ガ出來ナカツタ、今回東亞海運株式會社ガ、是ハ國策會社トシテ設立セラレルノデアリマスルカラ、無論一元化ヲ圖ルト云フコトガ最モ必要デアアルカラ、此ノ點ニ對シテハ十分一元化ヲ圖ルヤウニ努力スルト云フ、逓信大臣ノ答辯ガアツタノデアリマス

其ノ次ニハ船舶ノ運賃、運賃ノ共同計算制度ハ、正確ニ之ヲ實施スルト云フコトハ困難デアルト思フガ、政府ノ方針ハ果シテ

先ヅ第一ニ質問セラレタ要點ハ、初メ東亞海運株式會社ガ設立致シマシタ時ニハ、朝鮮郵船並ニ大連汽船、此ノ對支航路ノ統一元化ガ問題ニナツタノデアリマスルガ、今日マデ是ガ實行セラレテ居ナイ、是等ノ競合對支航路ヲ東亞海運株式會社ニ統合セシメマシテ、サウシテ日滿支海運ノ一元化ヲ圖ラナケレバナナイと思フガ、政府ノ考ヘハドウカト云フ質問ガアリマシタ、逓信大臣ノ御答辯ハ、東亞海運株式會社ガ國策會社トナル以上ハ、競合航路ノ統一ト云フコトハ最モ必要デアルト思フ、斯ウ云フ御答辯デアリマシタガ、大野朝鮮政務總監、荒川對滿事務局次長ノ答辯ハ、現地ノ事情カラ推シテ現在ノ狀況ガ適當デアルト云フヤウナ意味ノ御答辯デアツタノデアリマス、即チ統合ニ贊成セラレナイヤウナ意味ノ御答辯ガアリマシタカラ、今日更ニ之ニ對シマシテ強イ意見ノ發表、質問ガアツタノデアリマス、ソレニ對シマシテモ、逓信大臣ノ御答辯ハ洵ニ御尤モナ御質問デアアル、會テ東亞海運株式會社ガ設立致シマシタ時ニモ閣議ニ於テ決定シテ居ツタノデアアルガ、未ダニ實行ガ出來ナカツタ、今回東亞海運株式會社ガ、是ハ國策會社トシテ設立セラレルノデアリマスルカラ、無論一元化ヲ圖ルト云フコトガ最モ必要デアアルカラ、此ノ點ニ對シテハ十分一元化ヲ圖ルヤウニ努力スルト云フ、逓信大臣ノ答辯ガアツタノデアリマス

ドウカト云フ質問デアリマス、之ニ對シマシテ政府ノ答辯ハ、共同計算ノ目的ハ、低物價政策遂行上、南洋鑛石其ノ他ノ爲ニ赤字配船ヲ行フ運船業者ノ赤字ヲ補填セントスルモノデアアル、海運業ニ於テハ、一々細カナ共同計算ヲ行フコトハ中々困難デアアルカラ、度ヲ過ギタ細カイ計算ハシナイデモ宜イト思フ、斯ウ云フ意味ノ答辯デアツタノデアリマス

次ニハ、今日ハ非常ニ船腹ガ不足シテ居ル、此ノ船腹不足ニ對シテハ、ドウ云フ對策ヲ政府ハ持ツテ居ルカ、斯ウ云フ質問ガアリマシタガ、政府ノ答辯ハ、其ノ船腹不足ノ對策ト致シマシテ、先ツ積極手段トシテハ、船舶ノ建造或ハ船舶ノ買収或ハ備船サウ云フヤウナ手段ヲ執リ、尙又消極手段トシテハ船舶ノ廻轉率ヲ増加スル、即チ港ニ碇泊シテ居ル所ノ日數ヲ減少スルトカ、或ハ船舶荷役ト又陸上トノ關係ヲ簡易ニスルトカ、或ハ舄ヲ整理スルトカ、人足組合ノ調整ヲスルトカ、斯ウ云フ意味ノ答辯ガアツタノデアリマス

次ニハ支那ニ於ケル、例ヘバ揚子江ノヤウナ内河航行權ニ付テハ、從來其ノ航行權ヲ外國ニ許可シテ居ツタガ爲ニ、「イギリス」ノ如キハ強大ナ航行權ヲ獲得シテ居ツタケレドモ、今回ノ事變ノ爲ニ悉ク停止ニナツテ居ル、併シ一タビ是ガ平和ニナツタ時ニハ、再び其ノ勢力ヲ挽回シテ、元ノ狀態ニ立至ルヤウナコトガアリハシナイカト云フ質問ガアリマシタ、政府ハ此ノ點ニ付テハ、極力日本ノ勢力ガ減退ヲシナイヤウ

ニ、今カラ十分ナル方策ヲ考究シナケレバナラスト云フ答辯ガアツタノデアリマス
次ニハ、此ノ東亞海運株式會社ニハ、ヤハリ支那ノ國民モ參加セシムルノ必要ガアルト思フガドウカ、之ニ對シマシテ政府ハ、全ク其ノ通りデアアル、故ニ此ノ法律案ノ第六條ノ第二項ニ、普通ノ國策會社ニハ規定ノナイ規定ガ設ケテアル、即チ外國人ト雖モ政府ノ許可ヲ受ケタ場合ニハ株式ヲ所有スルコトガ出來ルト云フ條項ヲ設ケテ、支那ノ國民ト雖モ此ノ株式ヲ所有スルコトガ出來ルト云フコトニシテ居ルト云フ答辯デアリマシタ

次ニハ、從來ノ東亞海運株式會社ハ、今マデ相當ノ成績ヲ擧ゲテ居リ、利益ノ配當モ相當シテ居ル、故ニ從來ノ東亞海運株式會社ヲ増資スルトカ、又其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ強化シタ場合ニ於テハ、別ニ新タニ國策會社ヲ設ケルノ必要ハナイデハナイカ、斯ウ云フ質問ガアリマシタガ、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、從來ノ東亞海運株式會社ヲ擴大強化スルノニハ相當ノ資金ヲ必要トスル、ノミナラズ獨リ營業事業ヲ營ムバカリデハナイ、營利ヲ目的トシナイ事業ヲモ行ハシメルノ必要モアルノデアアル、又第三國ノ競争航路ヲ排除シテ、支那ノ航權ヲ獲得スルノニハ、國策會社デナケレバ之ヲ遂行スルコトガ困難ナヤウナ場合モアルノデアアルカラ、本案ヲ制定スル必要ガアルノデアアルト云フ答辯ガアツタノデアリマス

大體斯ウ云フ意味ノ質問ガアリマシテ、質疑ヲ終了致シマシテ、討論ニ入りマシタ、

小林委員カラ本案ノ第十條ノ第一項ニ左ノ一項ヲ加ヘル、之ヲ此處デ讀上ゲマス
東亞海運株式會社ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ退職後五年間ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ東亞海運株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ
此ノ一項ヲ加フベシトノ修正意見ガアリマシテ、此ノ小林君ノ修正意見ニハ全會一致之ニ贊成シテ可決シタノデアリマス、簡單デアリマスルガ此ノ段御報告致シマス(拍手)

○副議長(田子「民君」) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ
○副議長(田子「民君」) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○服部崎市君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス
○副議長(田子「民君」) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子「民君」) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り確定致シマシタ(拍手)

東亞海運株式會社法案 第二讀會(確定議)
○副議長(田子「民君」) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、昭和十二年法律第九十號中改正法律案ヲ議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス
○副議長(田子「民君」) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子「民君」) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ
昭和十二年法律第九十號中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長村上國吉君

報告書
一昭和十二年法律第九十號中改正法律案(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月十五日
委員長 村上 國吉
衆議院議長小山松壽殿
〔村上國吉君登壇〕

○村上國吉君 只今議題ニ上セラレマシタ昭和十二年法律第九十號中改正法律案ノ委員會ノ審議ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス
此ノ改正案ハ一見シタ所甚ダ簡單ナルモノノ如クデアリマスガ、仔細ニ之ヲ檢討致

シマスト、頗る重要ナル内容ヲ持ツ法律案デアリマス。今期議會ニ提出サレマシタ政府ノ法律案中、食糧ニ關スルモノトシテハ、此ノ法案ガ最も關係ガ多イノト、食糧問題ガ極メテ重大性ヲ持ツコトニナツタ今日ノ時局ノ關係等カラ致シマシテ、其ノ質疑モ頗ル多ク、爲ニ委員會ハ去ル十二日カラ十五日マデ、四日間ニ互リ連日慎重ニ審議ヲ盡シタ次第アリマス。

而シテ此ノ法案ニ於テ改正セントスル其ノ要點ハ三ツアリマシテ、第一ハ昭和十二年法律第九十號、即チ米穀ノ應急措置ニ關スル法律ニ於キマシテハ、其ノ第二條ニ依リ政府ニ於テ買入又ハ賣渡ヲナシ得ルモノハ「米穀並ニ米穀以外ノ穀物及穀粉」ニ限ラレテ居リマシタモノヲ、「米穀及米穀以外ノ食糧農產物並ニ其ノ加工品」ト改メルコト、第二、本改正法案附則第二項ノ規定ヲ設ケマシテ、米穀統制法第二條第一項ノ米穀ノ最低價格及ビ最高價格ハ、勅令ヲ以テ定ムル一定ノ場合ニハ、其ノ公定スルコトヲ要シナイモノトスルコト、第三、附則第三項ノ規定ニ於キマシテ、昭和九年法律第二十

九號附則第二項ノ規定ヲ改メ、米穀需給調節特別會計法第四條ノ三ニ定ムル證券及ビ借入金ノ合計額ノ最高限度ヲ、從來ハ三億圓ノ範圍内ニ於テ増額シ得ルコトニナツテ居リマシタモノヲ、五億五千萬圓ノ範圍内ニ於テ増額シ得ルコトトナシタコトデアリマス。

今其ノ改正ヲ要スル理由ニ付テノ政府ノ說明ヲ御紹介申シマス。本法第二條ノ改正

正ヲ必要トスル理由ハ、政府ハ現ニ此ノ米穀ノ應急措置ニ關スル法律ニ基イテ、米穀及ビ米穀以外ノ穀物並ニ穀粉ノ買入ヲナシ、又其ノ賣渡ヲ行フテ、食糧需給ノ調節ニ當ツテ居ルノデアリマスガ、食糧需給ノ現在及ビ將來ノコトヲ考ヘルト、其ノ調節ニハ、獨リ穀類ヤ穀粉ノ買入、賣渡ノミデハナク、更ニ他ノ食糧農產物及ビ其ノ加工品ヲモ之ニ加ヘテ、需給ノ調節ニ應ズル必要ガアル、即チ今回新タニ其ノ取扱範圍ヲ擴張シテ、

甘藷、馬鈴薯、麵類等ニモ及ブコト致シ、其ノ買入、賣渡ヲナスコトニ依ツテ、食糧配給ノ圓滑ヲ期セントスルノデアリマス、而シテ其ノ買入ヲナスベキ數量ハ、現在ノ所甘藷一億二千萬貫、馬鈴薯三千万貫、麵類三千万「キログラム」程度ノ計畫デアリマシテ、米ヤ麥ノ端境期等ニ際シテ之ヲ配給シテ、食糧ノ需給ヲ調節セントスルノデアリマス。

又附則第二項ニ於キマシテ、勅令ヲ以テ定ムル一定ノ場合ニハ、米穀統制法第二條第一項ノ米穀ノ最低價格及ビ最高價格ハ、之ヲ公定スルコトヲ要セザルコトニナサントスル理由ハ、現在米穀ノ賣買ハ米穀配給統制法ノ第四條ニ基イテ定メラレタ最高販賣價格デ行ハレテ居ルノデアリマス、政府ノ米穀ノ買入及ビ賣渡モ亦時價ニ準據シ、現實ニハ右ノ最高販賣價格デ行ハレテ居ルノデアツテ、米穀統制法第二條第一項ノ最低價格及ビ最高價格ナルモノハ、全ク有名無實ノ存在トナツテ居リ、又其ノ第三條ノ買入及ビ賣渡ナルモノハ、全ク實行サレテ

居ラス實情デアリマス、仍テ此ノ有名無實ノ存在デアアル所ノ米穀統制法第二條第一項ノ最低價格及ビ最高價格ナルモノハ、米穀ノ統制法以外ノ法令ニ基キ米穀ノ販賣價格ガ制限セラレテ居ルガ如キ、勅令ノ定ムル一定ノ場合ニハ、必ズシモ其ノ公定ヲ要シナイモノトナスコトガ、出來得ルヤウニ致シテ置カウト云フノデアリマス。

更ニ附則ノ第三項ニ於テ、米穀需給調節特別會計ノ負擔ニ屬スル米穀證券及ビ借入金ノ基本的ノ最高限度ヲ、從來ハ三億圓ノ範圍内ニ於テ増額シ得ルコトニナツテ居タモノヲ、二億五千萬圓増額シ、五億五千萬圓ノ範圍内ニ於テ増額シ得ルコトトナサントスル理由ハ、右ニ述ブルガ如クニ、今回新タニ穀類及ビ穀粉以外ノ食糧農產物及ビ其ノ加工品ヲ買入、賣渡ヲナシ得ルコトニ致シタ結果、其ノ買入資金モ要スルコトデアリ、又今日マデノ資金デハ、穀類及ビ穀粉ノ買入ニ付キマシテモ、時アツテ不足ヲ感ズル場合ナキニシモアラズト考ヘラレルノデ、其ノ如何ナル場合ニモ資金ノ不足ヲ來スコトナキヤウニ致シテ置ク必要ガアルカラダト云フコトデアリマス。

以上紹介致シマシタ所ノ本法改正ノ要點及ビ其ノ理由ナルモノハ、何レモ至ツテ平明デ、格段ナル説明ヲ要シナイヤウデアリマスガ、併シ此ノ改正法律ガ施行セラルルコトニナルト、其ノ運用上特ニ大切ナル點ノアルコトガ、委員會ノ審議ニ依ツテ明カニナリマシタノデ、此ノ場合私ハソレヲ指摘シテ御報告ヲ致シ、又後日ノ爲ニ速記ニ

モ留メテ置キタイト思フノデアリマス。其ノ一ハ、從來本法ノ第二條ニハ、政府ガ米穀等ノ買入及ビ賣渡ヲナス場合ニハ、米穀統制委員會ニ諮問シテ「トナツテ居ルノデアリマスガ、此ノ改正ニ依ツテ其ノ十二字ガ削除サレルノデアリマス、此ノ點ニ關スル政府ノ説明ニ依ルト、此ノ十二字ハ削除スルガ、削除ハシテモ米穀統制委員會ノ存續スル限りハ必ズ諮問スル、後日若シ此ノ委員會ヲ廢止スルヤウナ場合ニハ、必ズ之ニ代ル委員會ヲ勅令等ノ如キ法的根據ノアル手續ニ依ツテ設置シ、其ノ委員會ニ諮問スルコトニスルト云フコトデ、委員會ハ其ノ説明ヲ諒承シテ、之ヲ承認シタモノデアルコトヲ申上ゲテ置キマス。

其ノ二ハ、勅令ヲ以テ定ムル一定ノ場合ニ於テ、米穀統制法第二條第一項ノ最低價格及ビ最高價格ノ公定ヲナサナイ場合ノ販賣價格決定ノ方法ノ問題デアリマス、政府ハ今米穀配給統制法第四條第一項ニ基イテ、其ノ最高販賣價格ヲ定メテ居リマスガ、其ノ最高販賣價格ハ米穀統制法第二條ノ最高價格ニ準據シタモノデアリマス、然ルニ今其ノ米穀統制法第二條ノ最低價格及ビ最高價格ヲ定メナイモノトシタ時ニ、米穀ノ公定價格ハ如何ナル基準ニ依ツテ決定スルノカト云フ、重大ナ問題ガ生レテ來ルノデアリマス、

此點ニ關シマシテハ特ニ農林大臣カラ説明ガアツタノデアリマスガ、ソレニ依ルト、此ノ問題ニ付テハ政府ニ於テ今色々考究中デアツテ、マダ決定シテ居ル譯デハナイガ、自分一己トシテハ、今日マデノ米價決

定ノ沿革ヲ重要視スル、生産費ハ勿論、家計、米價、物價參酌値、時ノ物價、經濟事情、又社會情勢ナドノ諸條件ヲ慎重ニ考慮シテ、最モ適當ニ決定スルヤウニ致サネバナラスト考ヘテ居ルトノコトデアリマシタ、委員會ハ此ノ大臣ノ言明ヲ信賴シテ諒承致シタ次第デアリマス

其ノ三ハ、右ノ公定價格ヲ決定スル機關ノ問題デアリマシテ、從來ノ慣例トシテハ、米穀ノ最低價格及ビ最高價格ハ、米穀統制委員會ニ諮問シテ決定サレタノデアリマスガ、其ノ最低價格及ビ最高價格ヲ決定シナイト云フコトニナルト、米穀統制委員會ハ存置サレテアツテモ、ソレニ諮問スベキ機會ガナクナル、又米穀配給統制法デハ、ソレ等ノ諮問機關ヲ置クコトニナツテ居ナイ、サウスルト是等ハ政府ノ獨斷デ米價ヲ決定スルコトニナリハセナイカト云フ、極メテ重大ナル點デアリマシテ、之ニ對シテ農林大臣ハ、決シテ政府ノ獨斷デ決定致スヤウナコトハ致サス、從來官制ニ依ツテ米穀局顧問制ガ設ケラレテアリマシタガ、今回之ヲ食糧管理局顧問制ニ改メラレタノデアリマスガ、從來通り其ノ顧問ニモ意見ヲ聽キマス、又米穀委員會若シクハ前ニ述ベタ所ノ、此ノ委員會ニ代ツテ官制ニ依ツテ設置サレル所ノ委員會ニ諮ツテ決定スルトノコトヲ明カニセラレマシタノデ、委員會ハ是亦大臣ノ此ノ言明ヲ信賴シテ、其ノ取扱ヒ方ヲ承認致シタ次第デアリマス

以上述べた三點ハ極メテ重要デアルト信ジマスカラ、特ニ之ヲ御報告ヲシテ置ク次第デアリマスガ、其ノ他ニ此ノ法案ノ附則ノ第三項ニ依ツテ、米穀需給調節特別會計法ノ昭和九年法律第二十九號ニ依ル附則第二項ヲ改正スルコトニナリマスノデ、此ノ點ニ關シマシテモ審議ヲ致シタノデアリマスガ、農林大臣ハ斯ウ云フ手續ノ執リ方ハ今日マデ先例ノアルコトデ、最近ノ慣例トナツテ居ルコトデ、妥當デナイカモ知レスガ、違法トハ認ムベキデナイノデ、手續ヲ簡捷ニスル爲ニ斯ク致シタノデアルトノ答辯ヲ與ヘラレ、委員會ハ大臣ノ此ノ答辯ヲ承認致シタノデアルトヲ、併セテ御報告致シテ置キマス

以上ハ專ラ此ノ改正法案ノ内容ニ關スル改正ノ理由、案文ノ解釋、其ノ運用等ニ付テ、委員會ニ於ケル審議ノ經過ヲ御報告シタノデアリマスガ、委員會ニ於テハ其ノ他ニ幾多重要ナル質疑ガ熱心ニ展開サレマシタ、而シテ其ノ質疑ハ相當廣汎又多岐ニ互ツテ居ルノデアリマスガ、就中主要ナルモノヲ要約シマスルト、食糧及ビ飼料等ノ増産對策、米穀ノ管理ニ關スル問題、食糧殊ニ米穀ノ價格問題、農林水産物等ノ配給對策、肥料其ノ他生産必需資材ノ配給問題、農村ノ勞力及ビ賃銀ニ關スル問題等デアリマシタ、私ハ一々之ヲ御紹介致シタイノデアリマスガ、今ハ其ノ餘裕ガアリマセヌノデ、ソレ等ハ舉ゲテ委員會ノ速記録ニ依ツテ御諒承ヲ願フコトニシテ、此處ニハ其ノ報告ヲ省略スルコトニ致シマス

斯クテ委員會ハ去ル十五日其ノ質疑ヲ終了シ、直チニ討論ニ入りマシタ所、成島委員カラ本案ニ對スル賛成ノ意見ガ述ベラレマシタ、次イデ採決ノ結果、全會一致本案ハ可決サレマシタ、此ノ段御報告致シテ置キマス(拍手)

○副議長(田子「民君」) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子「民君」) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子「民君」) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子「民君」) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

昭和十二年法律第九十號中改正法律案(米穀ノ應急措置ニ關スル件)

第二讀會(確定議)

○副議長(田子「民君」) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日は是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子「民君」) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子「民君」) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス
午後三時四十六分散會

衆議院議事速記録第十二號中正誤

衆議院議事速記録第十四號中正誤

頁	段	行	誤	正
一七	二	四	事項	事業
一八	三	六	行政官ハ	行政官廳ハ
一六	一	三	行ヒ又ハ	行ヒ若ハ
一七	三	五	大ナル影響	大ナル影響
一八	三	六	計ツテ	計ツテ